

平成30年7月豪雨における出水について【速報版】 (最終報)

(遠賀川水系、筑後川水系、松浦川水系、六角川水系、
嘉瀬川水系、山国川水系、菊池川水系、球磨川水系)

九州地方整備局
平成30年8月27日

目 次

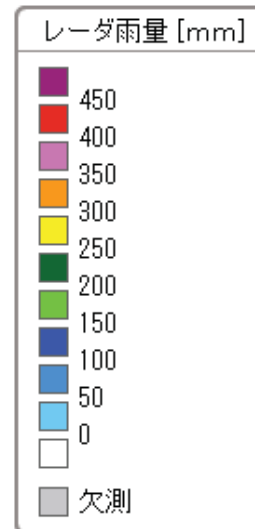
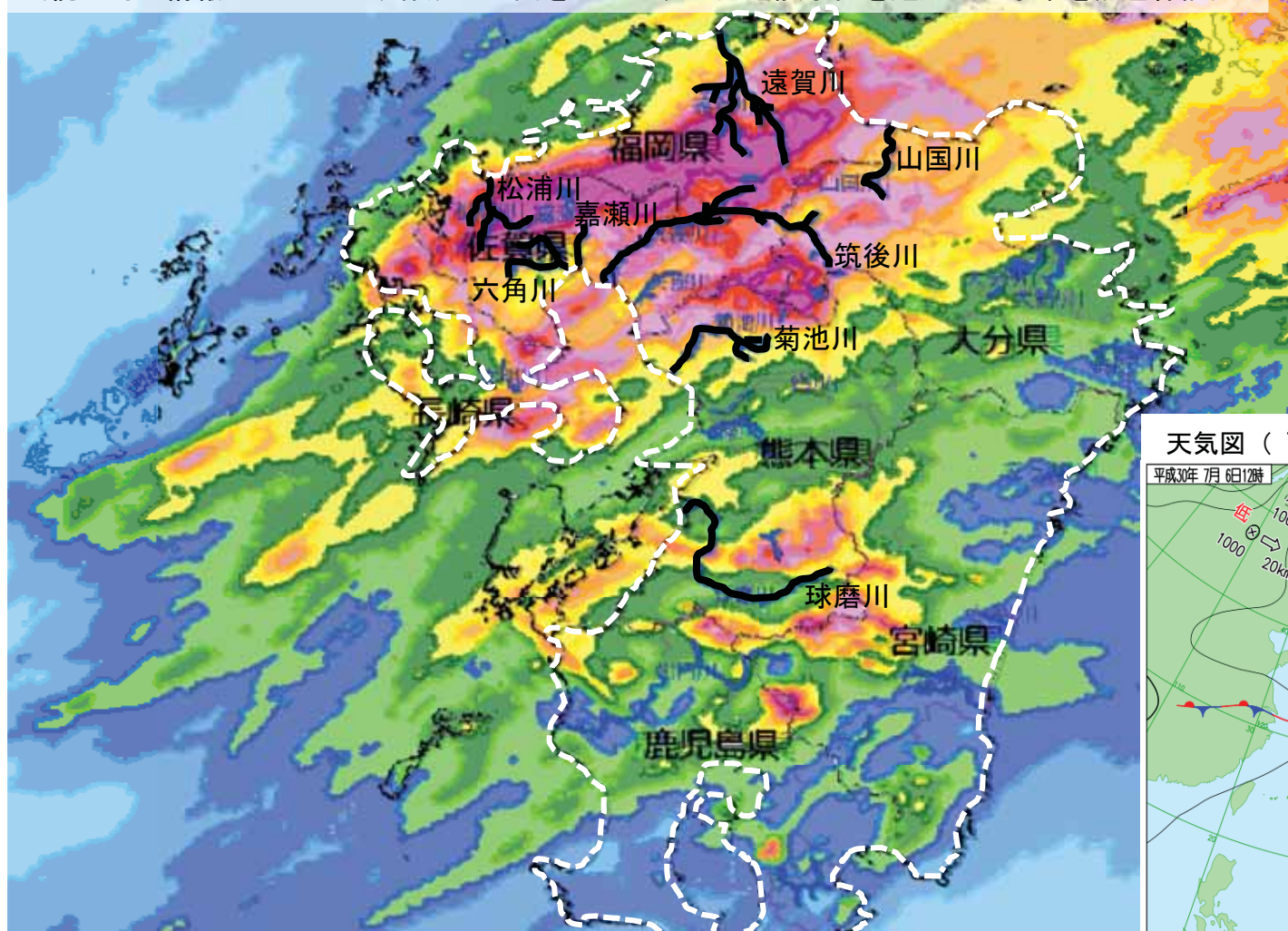
1. 気象・降雨の概要	1～
2. 九州地方整備局管内の直轄管理河川の状況	2～
3. 降雨の概要	3～
4. 水位の概要	11～
5. 出水状況写真	30～
6. 被害箇所位置及び緊急復旧工事の状況	34～
7. ホットライン実施状況	36～
8. 治水事業の効果	39～
9. 直轄管理河川における一般被害状況	53～
10. 直轄管理河川等における施設被害状況	54～

1. 気象・降雨の概要

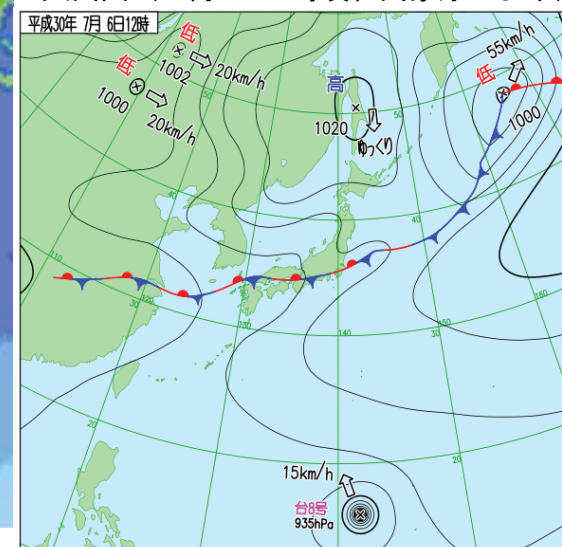
○7月5日（木）から7日（土）にかけて、梅雨前線の活発な活動により九州の広範囲に強い雨域がかかり、多くの雨量観測所で観測史上最多の日雨量を観測する記録的な大雨となりました。

7/5 6:00～7/7 12:00累積レーダ雨量

（統一河川情報システムより作成した図を加工し、氾濫危険水位を超過した水系を黒色標記）



天気図（7月6日12時頃、気象庁HPより）



※本資料の数値は速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

2. 九州地方整備局管内の直轄管理河川の状況

【平成30年7月12日15時現在】

○広範囲にわたる大雨の結果、九州内20の一級水系のうち、8水系で氾濫危険水位を超過し、遠賀川、筑後川両水系では9つの水位観測所で観測史上最高水位を観測。

1. 河川出水状況（直轄河川）

○レベル4（氾濫危険水位超過）＜8水系＞

- ・遠賀川、筑後川、山国川、松浦川、六角川、嘉瀬川、菊池川、球磨川

※現在水位は水防団待機水位以下まで降下

2. 直轄ダム洪水調節状況（直轄河川）

○直轄9ダムで防災操作を実施

厳木ダム（松浦川水系）、嘉瀬川ダム（嘉瀬川水系）、
下釜ダム・松原ダム（筑後川水系）、耶馬溪ダム（山国川水系）、
竜門ダム（菊池川水系）、緑川ダム（緑川水系）、
鶴田ダム（川内川水系）、大分川ダム※（大分川水系）

※試験湛水中であったが貯留による洪水処理を実施

3. 避難指示等の状況

○福岡県5市、4町、1村で避難指示

久留米市、飯塚市、田川市、小郡市、嘉麻市、大刀洗町、広川町、香春町、
赤村、福智町

○佐賀県2市、1町で避難指示

唐津市、武雄市、吉野ヶ里町

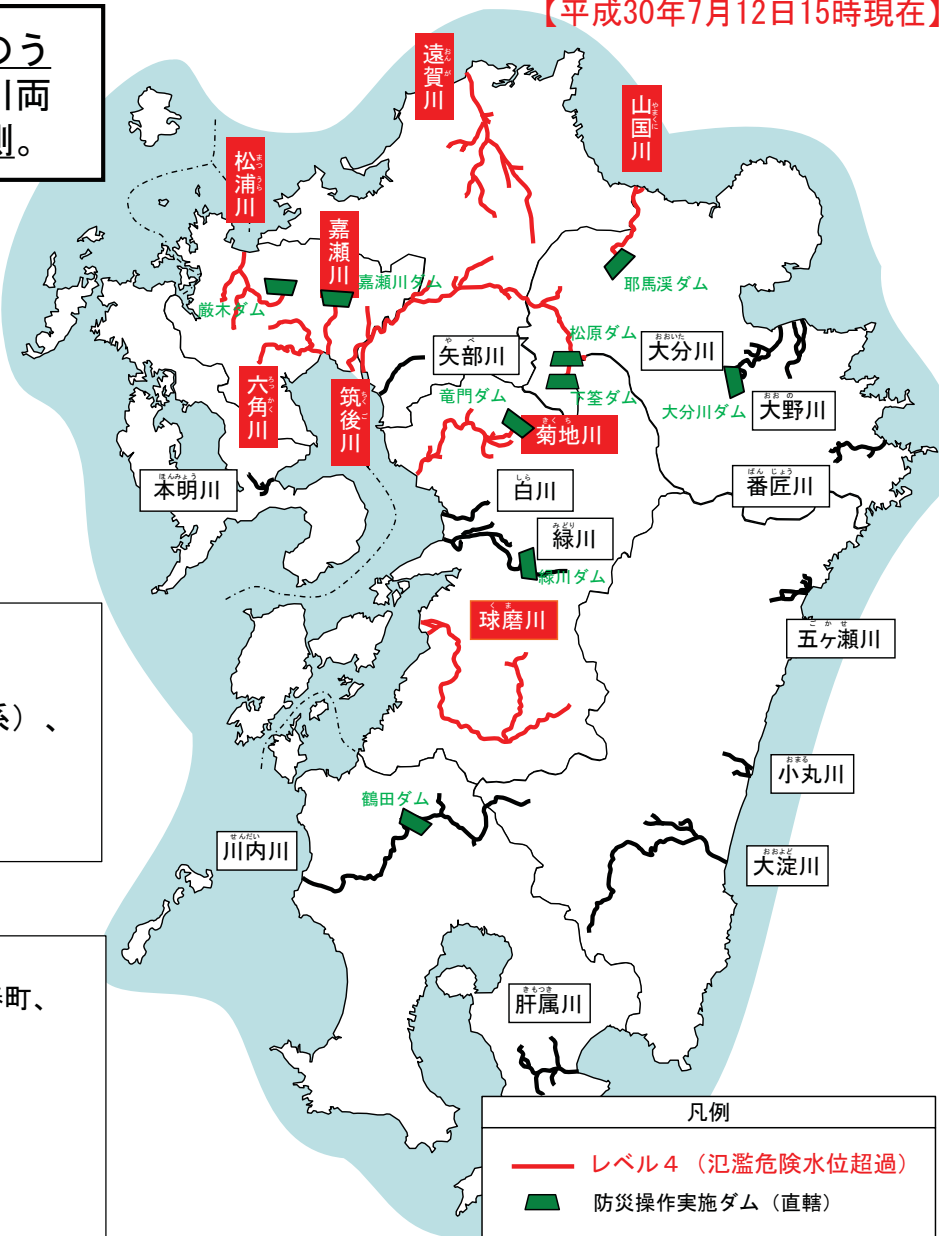
○熊本県1市、2村で避難指示

玉名市、相良村、五木村

○大分県1市で避難指示

中津市

避難勧告は23市、23町、5村で発令

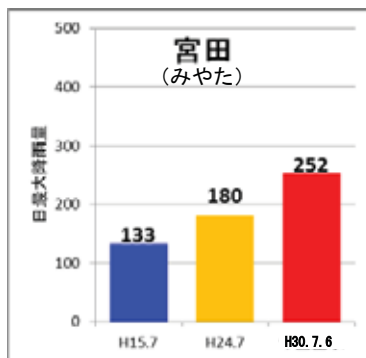


※本資料の数値は速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

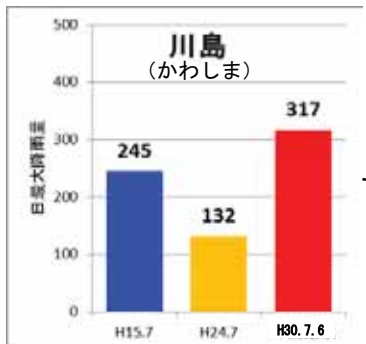
3. 降雨の概要（遠賀川流域の雨量）

遠賀川流域では、多くの雨量観測所において、近年の主な出水時（H15、H24）を上回る日雨量を観測したほか、複数の雨量観測所において観測史上最多日雨量を観測しました。

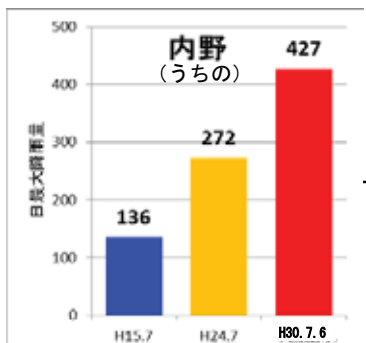
■流域内の特に雨量が多かった範囲における主な雨量観測所の雨量（単位：mm）



※観測史上最多: H21.7.24 (282mm/日)



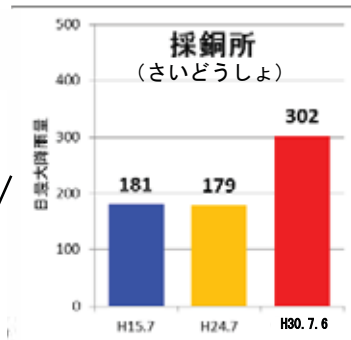
※これまでの観測史上最多: H21.7.24 (256mm/日)



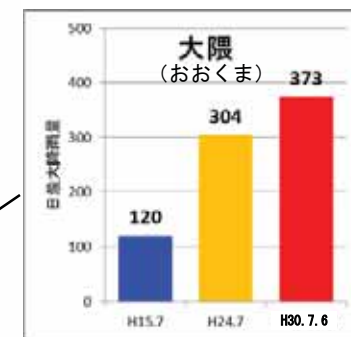
※これまでの観測史上最多: H7.7.2 (300mm/日)



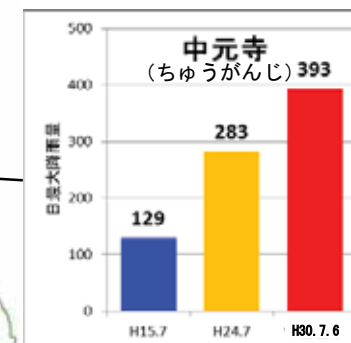
※観測史上最多: S30.4.15 (272mm/日)



※これまでの観測史上最多: H7.7.2 (290mm/日)



※これまでの観測史上最多: H24.7.14 (304mm/日)



※これまでの観測史上最多: H24.7.14 (283mm/日)

△ 氾濫危険水位を超過した観測所

本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

3. 降雨の概要（筑後川流域の雨量）

筑後川流域では、一部の雨量観測所において、近年の主な出水時（H24、H29）を上回る日雨量を観測したほか、角枝（つのえだ）雨量観測所や原田（はるだ）雨量観測所などで観測史上最多日雨量を観測しました。

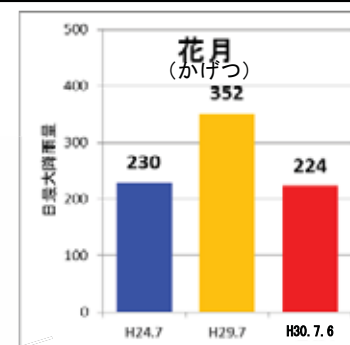
■流域内の特に雨量が多かった範囲における主な雨量観測所の雨量（単位：mm）



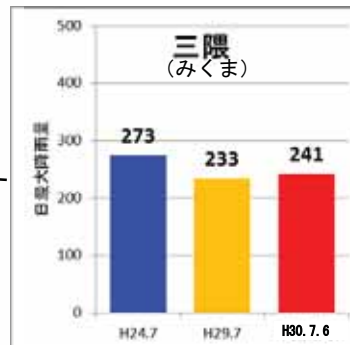
※これまでの観測史上最多：S38.6.30(376mm/日)



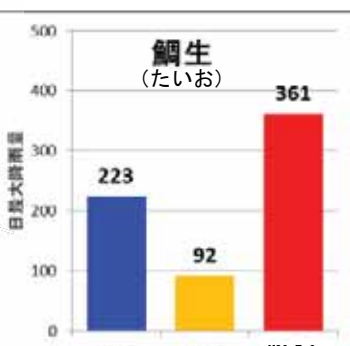
※これまでの観測史上最多：H29.7.5(303mm/日)



※観測史上最多：H29.7.5(352mm/日)



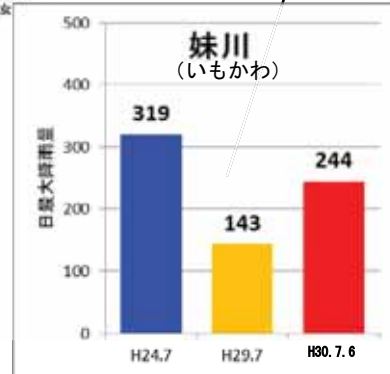
※観測史上最多：H24.7.14(273mm/日)



※これまでの観測史上最多：H21.6.29(328mm/日)



※観測史上最多：S28.6.25(317mm/日)



※観測史上最多：H24.7.14(319mm/日)

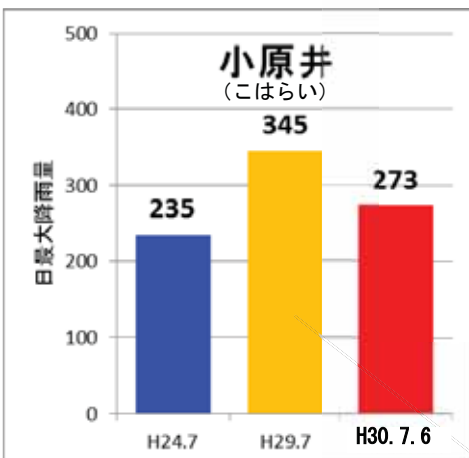
△ 氾濫危険水位を超過した観測所

本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

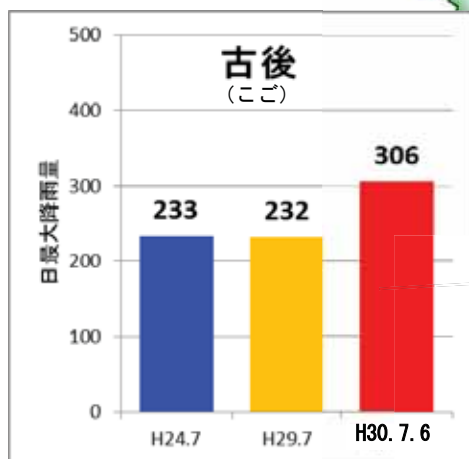
3. 降雨の概要（山国川流域の雨量）

山国川流域では、一部の雨量観測所において、近年の主な出水時（H24、H29）を上回る日雨量を観測したほか、古後（こご）雨量観測所において観測史上最多日雨量を観測しました。

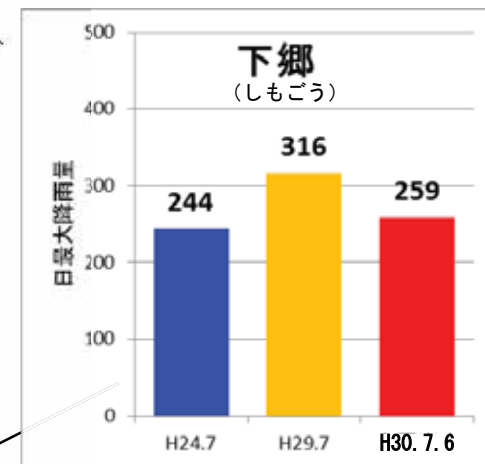
■流域内の特に雨量が多かった範囲における主な雨量観測所の雨量（単位：mm）



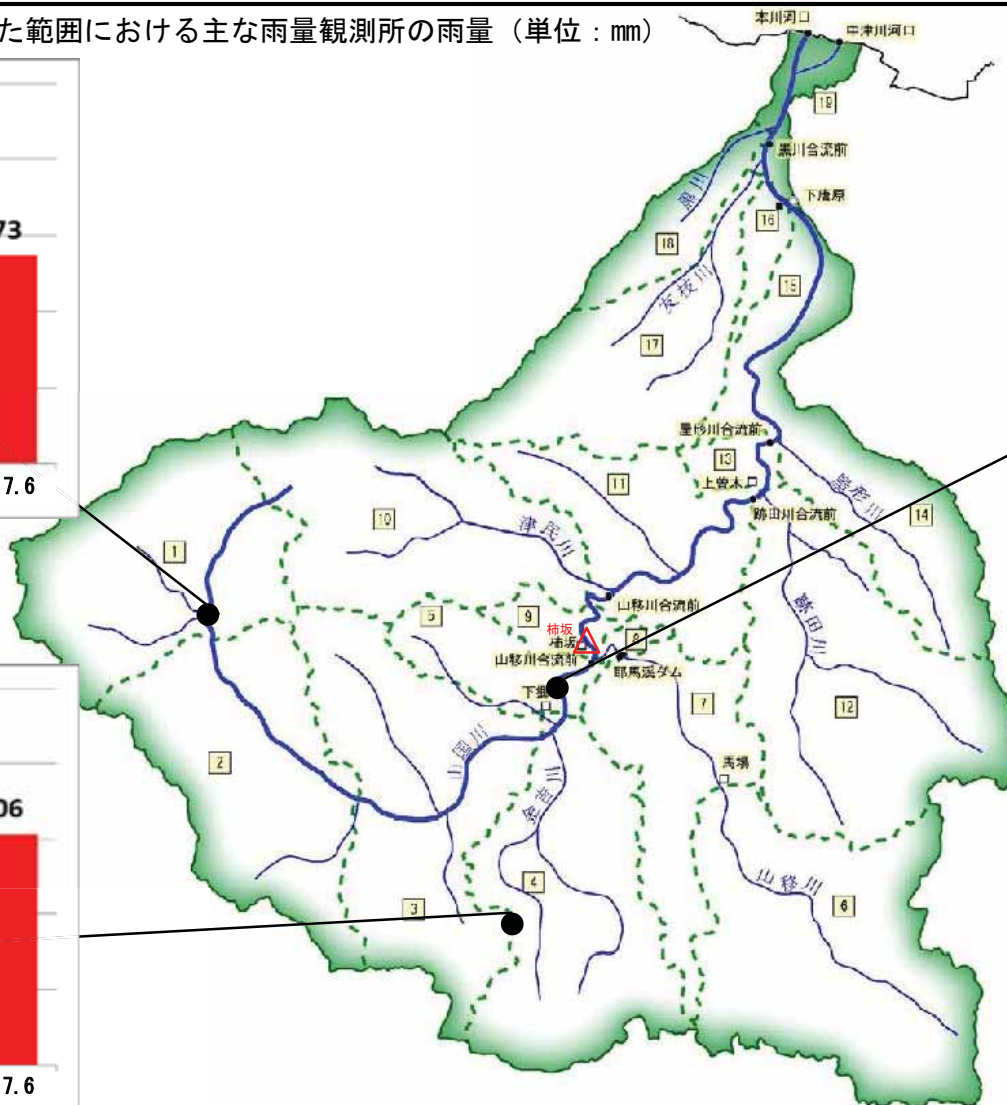
※観測史上最多：H29.7.5 (345mm/日)



※これまでの観測史上最多：H24.7.14 (233mm/日)



※観測史上最多：H29.7.5 (316mm/日)



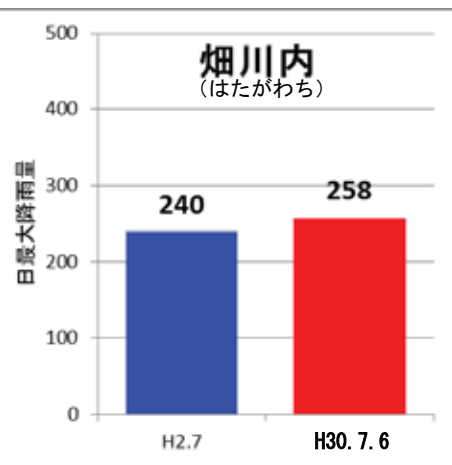
△ 氾濫危険水位を超過した観測所

本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

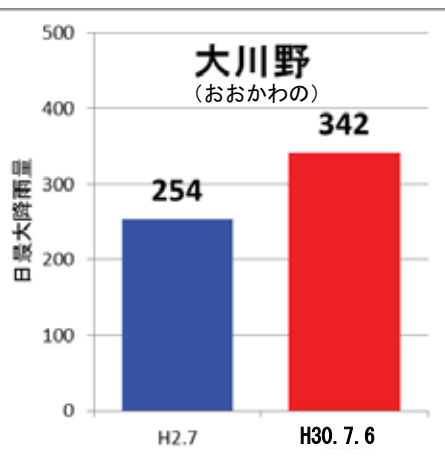
3. 降雨の概要（松浦川流域の雨量）

松浦川流域では、一部の雨量観測所において、近年の主な出水時（H2）を上回る日雨量を観測したほか、厳木ダム（きゅうらぎだむ）雨量観測所において観測史上最多日雨量を観測しました。

■流域内の特に雨量が多かった範囲における主な雨量観測所の雨量（単位：mm）



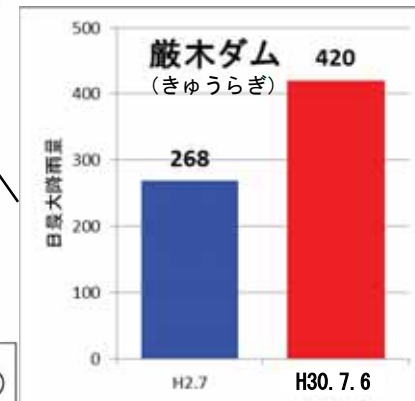
※観測史上最多: H14.9.16 (338mm/日)



※観測史上最多: H18.9.16 (349mm/日)



△ 氾濫危険水位を超過した観測所



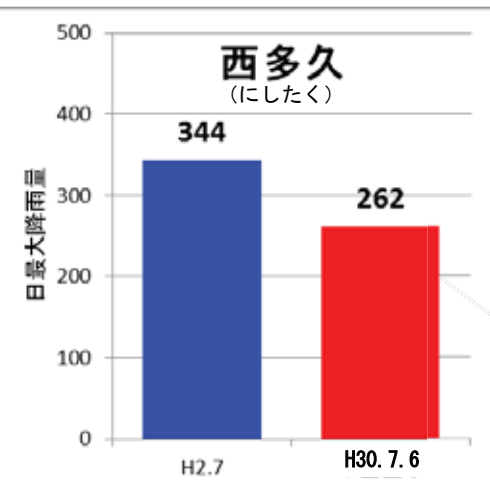
※これまでの観測史上最多: H13.6.19 (281mm/日)

本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

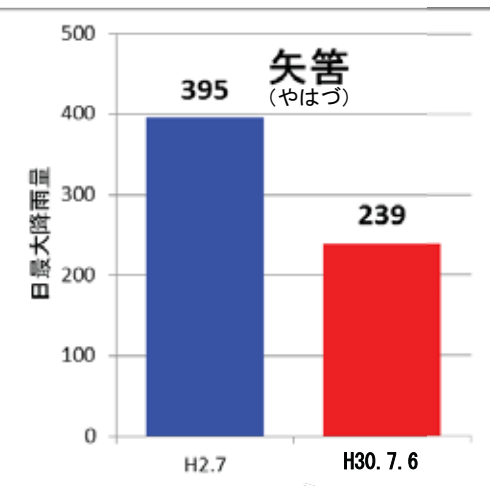
3. 降雨の概要（六角川流域の雨量）

六角川流域では、岸川(きしかわ)雨量観測所において、近年の主な出水（H2）を上回る日雨量を観測しました。

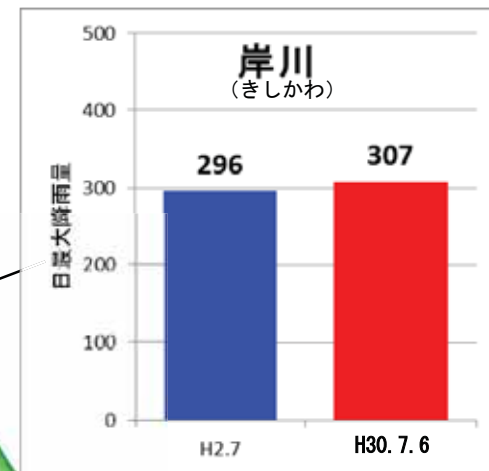
■流域内の特に雨量が多かった範囲における主な雨量観測所の雨量（単位：mm）



※観測史上最多：H2.7.1 (344mm/日)



※観測史上最多：H2.7.1 (395mm/日)



※観測史上最多：S508.29 (358mm/日)



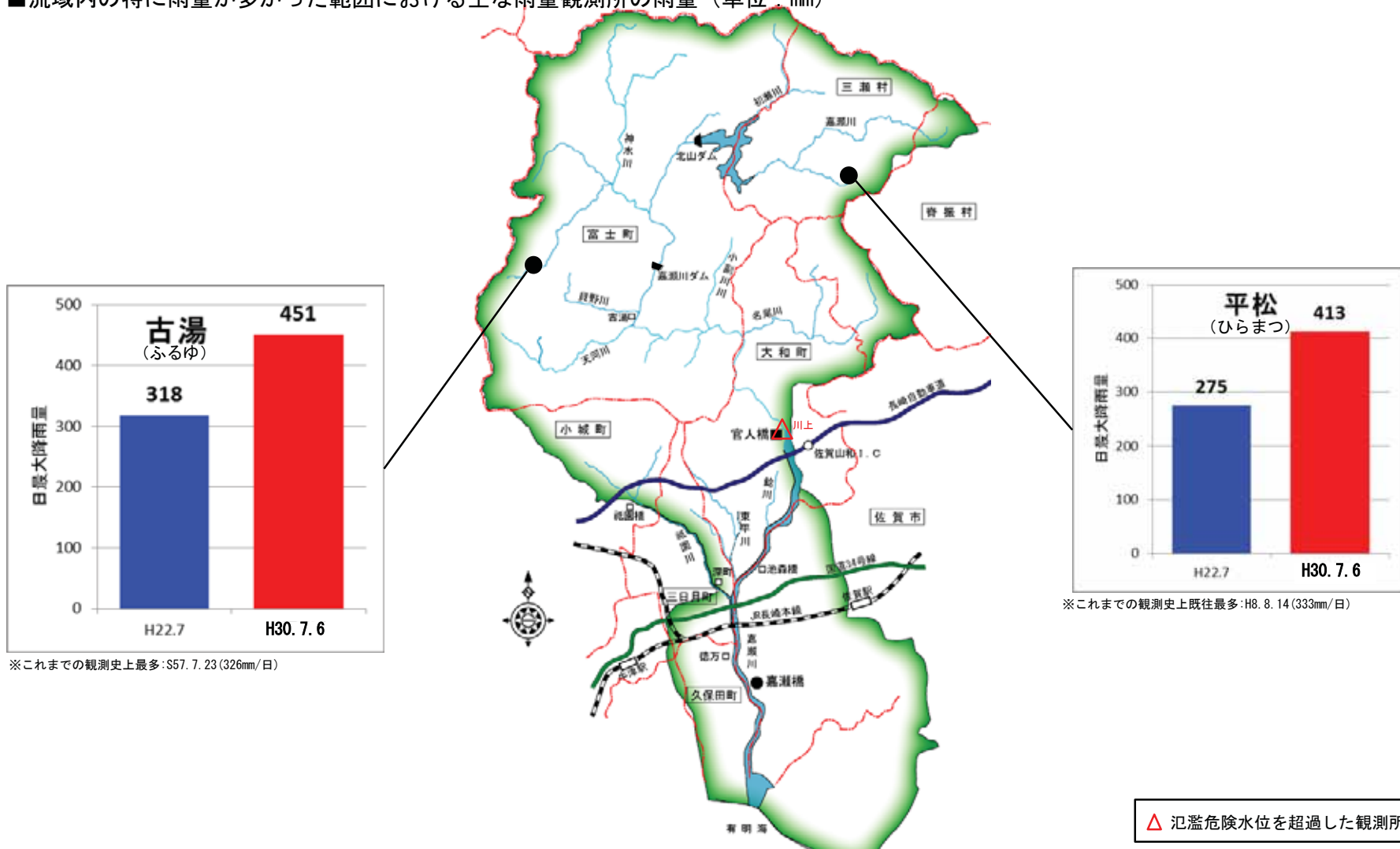
△ 氾濫危険水位を超過した観測所

本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

3. 降雨の概要（嘉瀬川流域の雨量）

嘉瀬川流域では、一部の雨量観測所において、近年の主な出水時（H22）を上回る日雨量を観測したほか、古湯（ふるゆ）雨量観測所や平松（ひらまつ）雨量観測所において観測史上最多日雨量を観測しました。

■流域内の特に雨量が多かった範囲における主な雨量観測所の雨量（単位：mm）

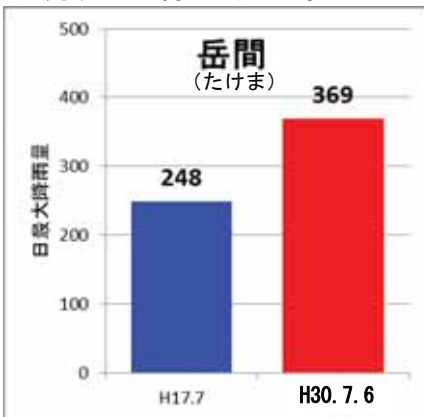


本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

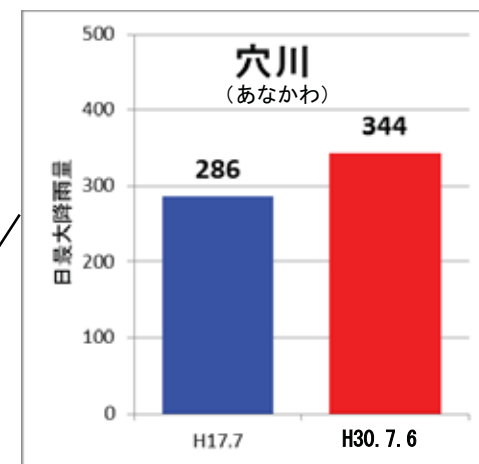
3. 降雨の概要（菊池川流域の雨量）

菊池川流域では、一部の雨量観測所において、近年の主な出水時（H17）を上回る日雨量を観測したほか、岳間（たけま）雨量観測所において観測史上最大日雨量を観測しました。

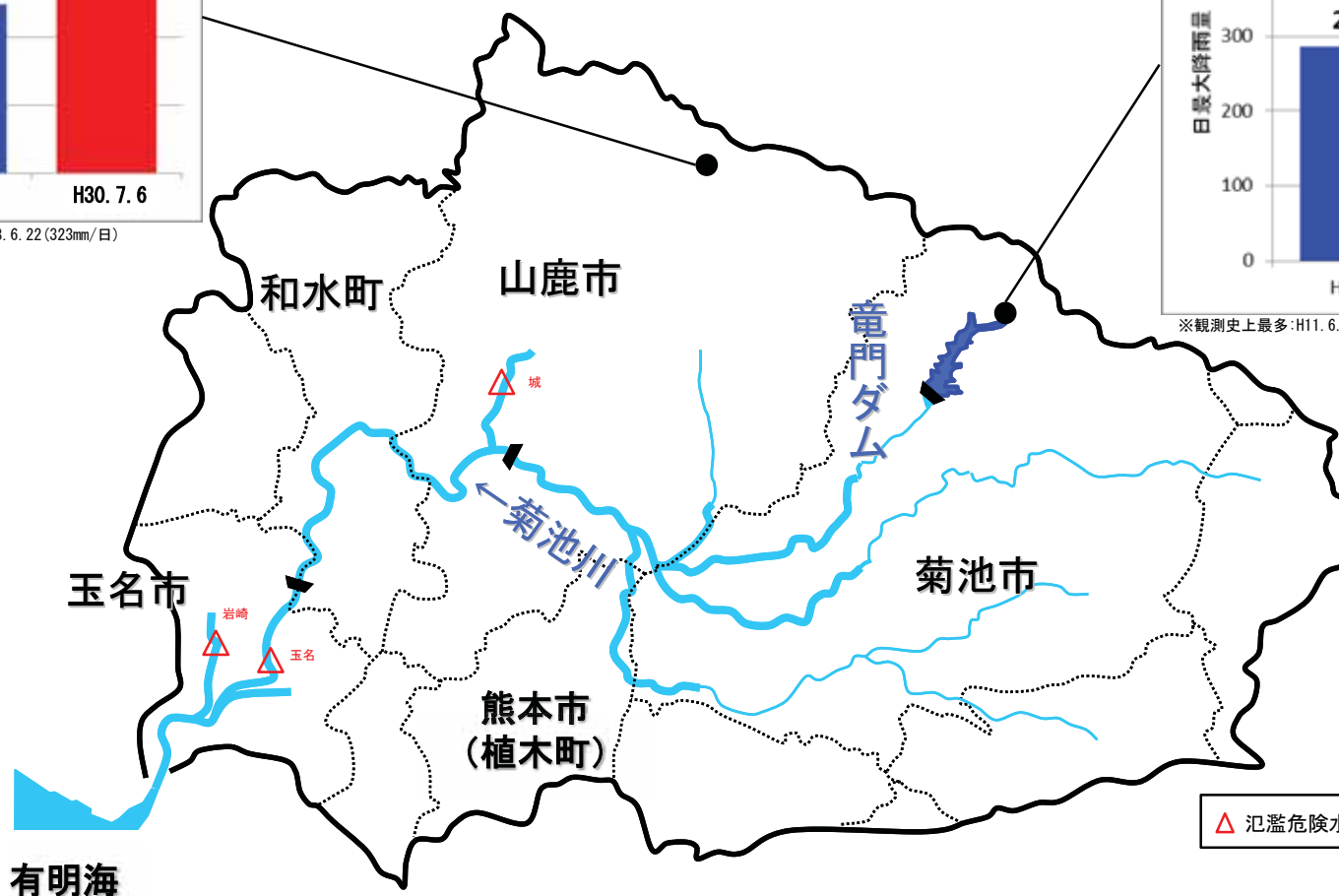
■流域内の特に雨量が多かった範囲における主な雨量観測所の雨量（単位：mm）



※これまでの観測史上最多：H28.6.22 (323mm/日)



※観測史上最多：H11.6.24 (394mm/日)



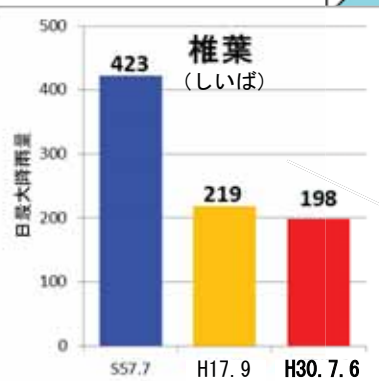
△ 氾濫危険水位を超過した観測所

本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

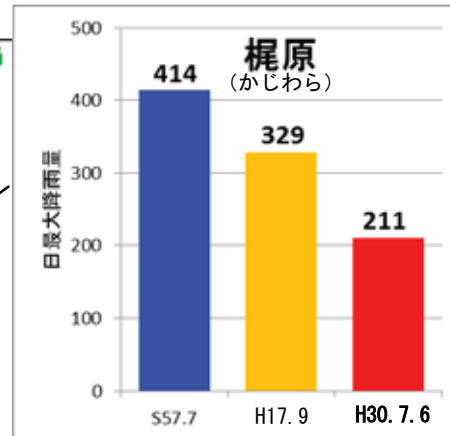
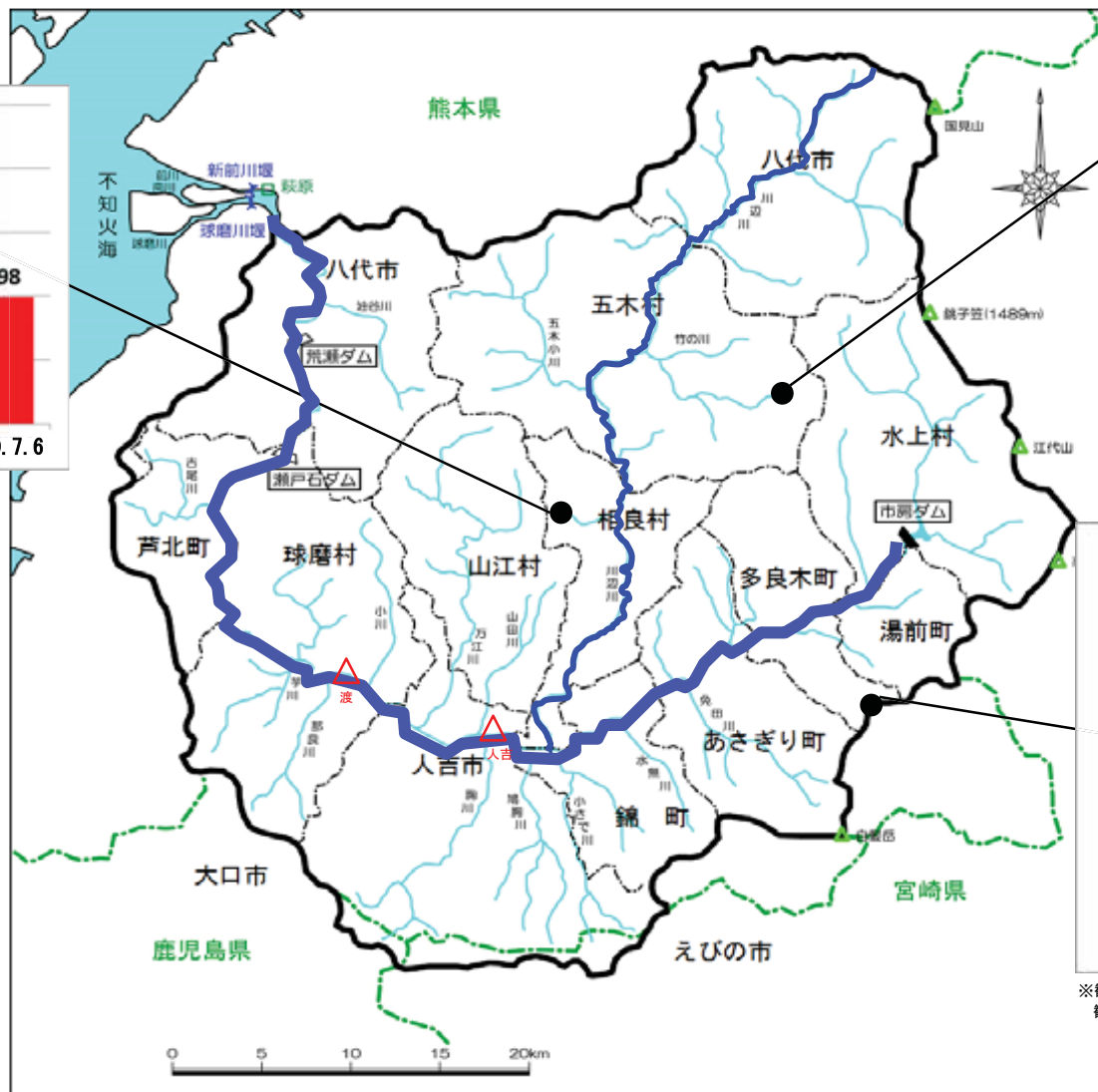
3. 降雨の概要（球磨川流域の雨量）

球磨川流域では、過去に水害が発生した出水時(S57,H17)の降雨量には及ばなかったものの、人吉(ひとよし)水位観測所と渡(わたり)水位観測所において氾濫危険水位を超過しました。

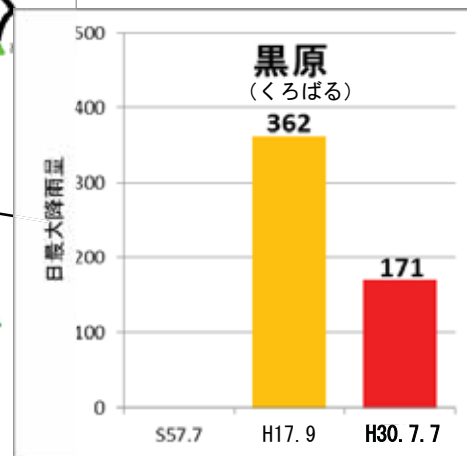
■流域内の特に雨量が多かった範囲における主な雨量観測所の雨量（単位：mm）



※観測史上最多：S57.7.11 (423mm/日)



※観測史上最多：S46.8.6 (420mm/日)



※観測史上最多：H元.7.27 (383mm/日)

観測開始が昭和58年であるため、昭和57年は観測無し。

△ 氾濫危険水位を超過した観測所

本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

4. 水位の全体概要

8水系（遠賀川、筑後川、松浦川、六角川、嘉瀬川、山国川、菊池川、球磨川）において氾濫危険水位を超える洪水が発生し、9観測所において観測史上最高水位を記録しました。

【氾濫危険水位を超過した水位観測所一覧】

水系名	河川名	観測所名	今回最高水位(m)	観測史上最高水位
遠賀川	遠賀川	川島(かわしま)	6.16	5.88(H15.7.19)※2
遠賀川	遠賀川	日の出橋(ひのでばし)	8.63	8.06(H22.7.14)※2
遠賀川	遠賀川	中間(なかま)	5.52	5.37(S28.6.26)※2
遠賀川	中元寺川	春日橋(かすがばし)	4.26	4.97(H24.7.14)
遠賀川	穂波川	秋松橋(あきまつばし)	5.79	6.84(H15.7.19)
遠賀川	笹尾川	野面(のぶ)	3.13	3.00(H21.7.24)※2
遠賀川	八木山川	生見(ぬくみ)	3.23	3.10(S62.7.19)※2
遠賀川	金辺川	夏吉(なつよし)	4.57	4.79(H15.7.19)
筑後川	筑後川	片ノ瀬(かたのせ)	9.36	10.3(H29.7.5)
筑後川	筑後川	荒瀬(あらせ)	6.9	7.35(H24.7.14)
筑後川	筑後川	小瀬(こぶち)	4.61	4.60(S38.8.17)
筑後川	筑後川	杖立(つえたて)	7.33	9.36(H2.7.2)※2
筑後川	宝満川	端間(はたま)	5.47	4.67(S47.7.10)※2
筑後川	巨瀬川	中央橋(ちゅうおうばし)	3.14	2.93(H24.7.14)※2
筑後川	小石原川	栄田橋(さかえだばし)	4.40	3.79(H22.7.14)※2
松浦川	厳木川	中島橋(なかしまばし)	2.71	4.05(S57.7.24)
松浦川	徳須恵川	徳須恵橋(とくすえばし)	5.73	6.62(S47.7.12)
六角川	六角川	潮見橋(しおみばし)	4.40	5.31(S54.6.29)
六角川	牛津川	妙見橋(みょうけんばし)	5.47	6.04(H2.7.2)
嘉瀬川	嘉瀬川	川上(かわかみ)	5.73	6.01(H22.7.14)
山国川	山国川	柿坂(かきさか)	5.81	6.89(H29.7.5)
菊池川	菊池川	玉名(たまな)	5.99	6.85(H2.7.2)
菊池川	繁根木川	岩崎(いわさき)	1.87	2.62(S47.7.12)
菊池川	岩野川	城(じょう)	5.02	5.51(H17.7.10)
球磨川	球磨川	人吉(ひとよし)	3.50	4.60(S57.7.25)
球磨川	球磨川	渡(わたり)	8.75	11.0(S57.7.25)

※1 赤字は今回の降雨によりこれまでの観測史上最高水位を超過したもの

※2 これまでの観測史上最高水位



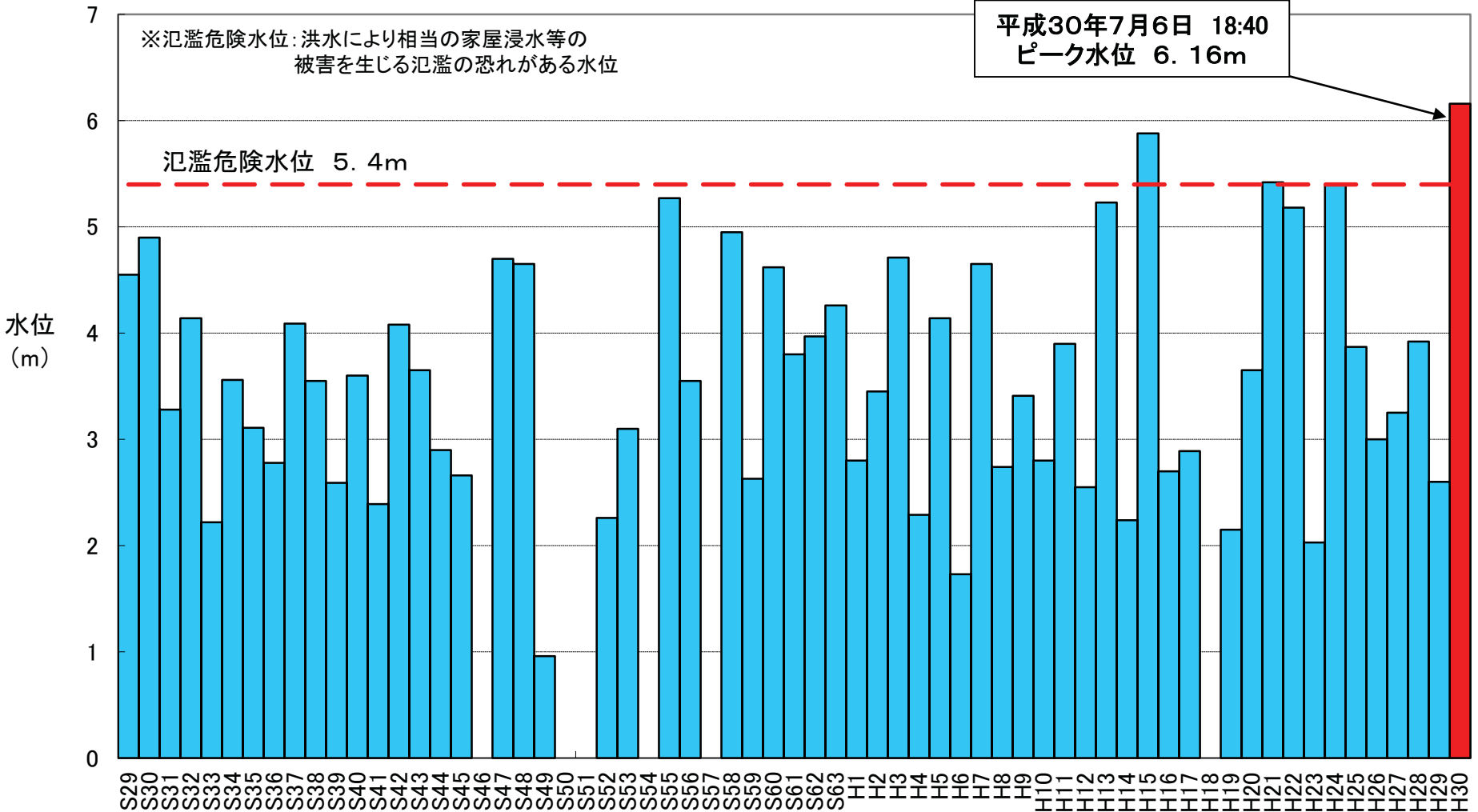
本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

4. 水位の概要①-1（遠賀川水系遠賀川）

遠賀川水系遠賀川の川島(かわしま)水位観測所において、7月6日18時40分に観測史上最高水位となる6.16mを記録しました。

遠賀川(川島水位観測所)の年最高水位比較図

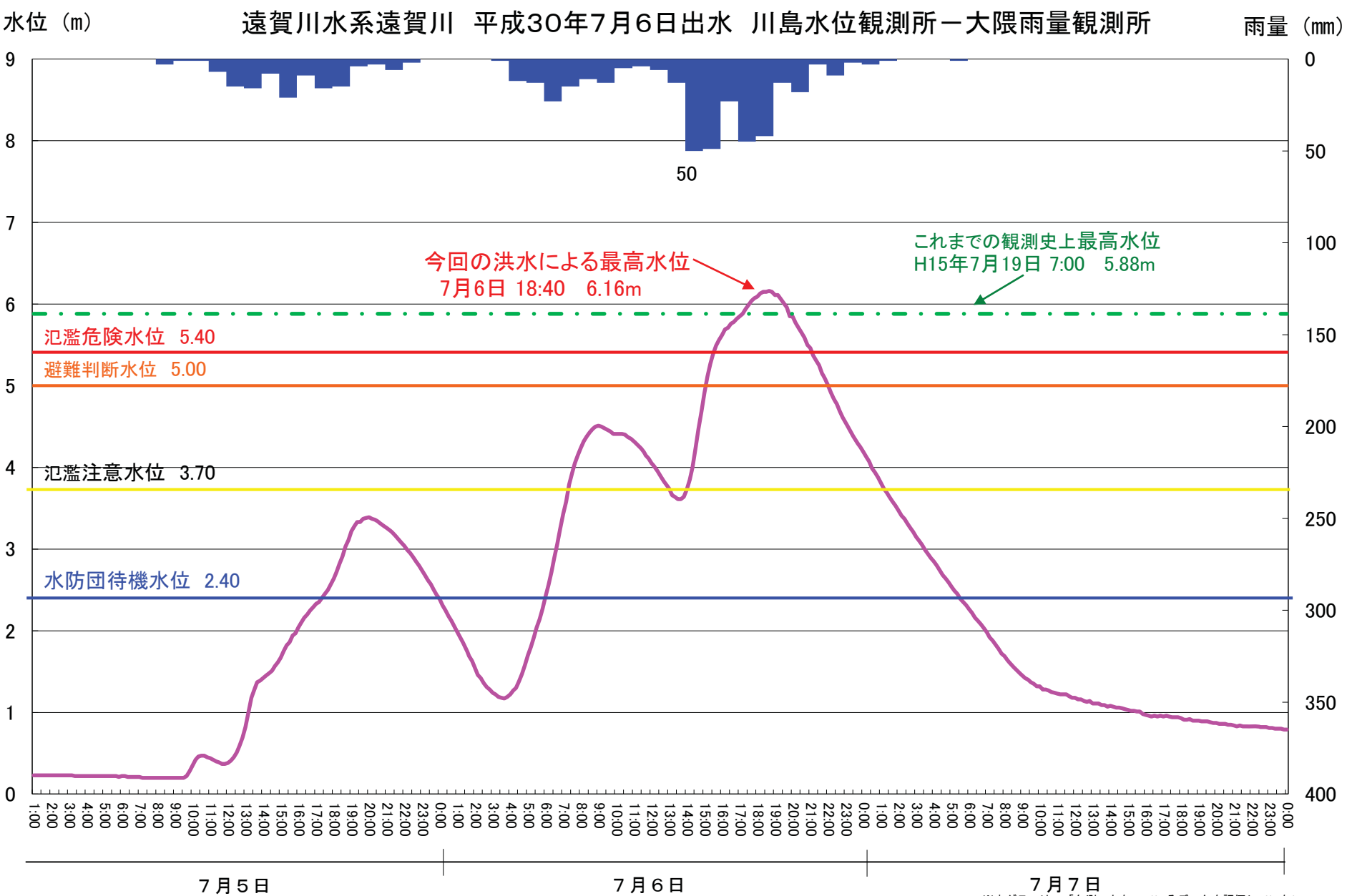
※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。



※川島水位観測所 所在地：遠賀川 30.5km地点(福岡県飯塚市幸袋) 零点高：T.P. 10.7m

※本グラフは、「欠測」となっているデータを評価していない。

4. 水位の概要①-2 (遠賀川水系遠賀川)



※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

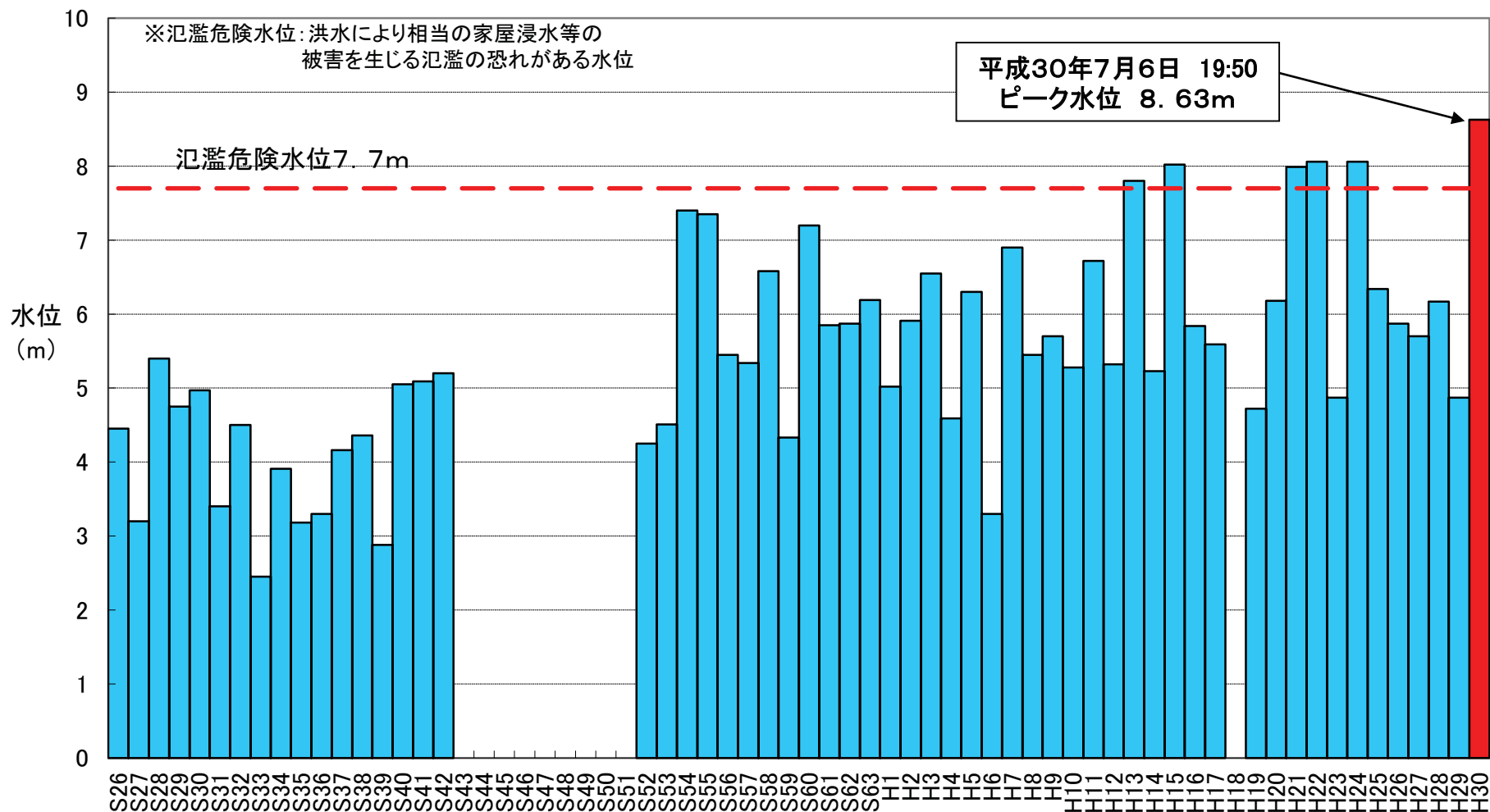
※本グラフは、「欠測」となっているデータを評価していない。

4. 水位の概要②-1（遠賀川水系遠賀川）

遠賀川水系遠賀川の日の出橋（ひのでばし）水位観測所において、7月6日19時50分に観測史上最高水位となる8.63mを記録しました。

遠賀川（日の出橋水位観測所）の年最高水位比較図

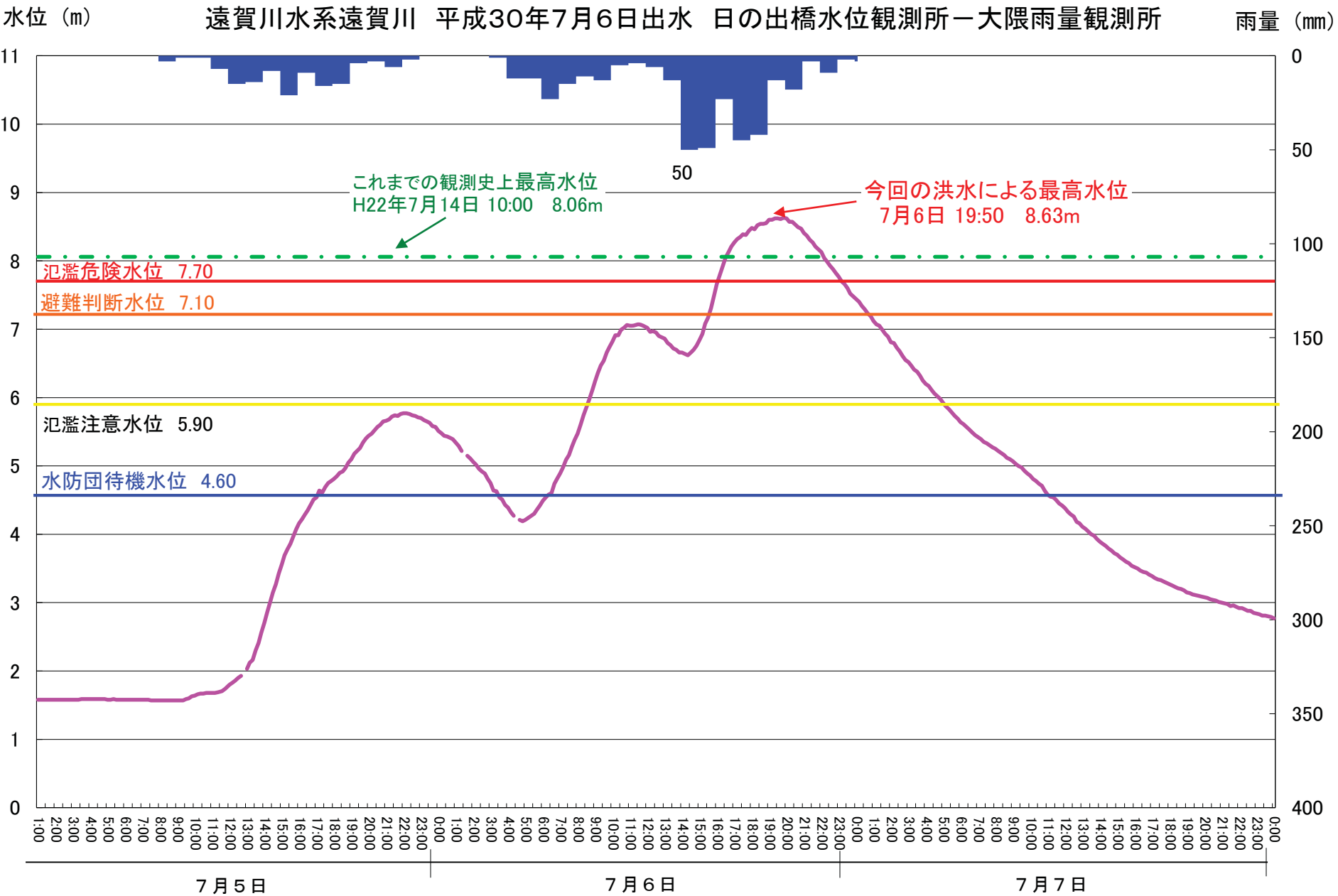
※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。



※日の出橋水位観測所 所在地：遠賀川 18.7km地点（福岡県直方市津田町） 零点高：T.P. 2.00m

※本グラフは、「欠測」となっているデータを評価していない。

4. 水位の概要②-2 (遠賀川水系遠賀川)



※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

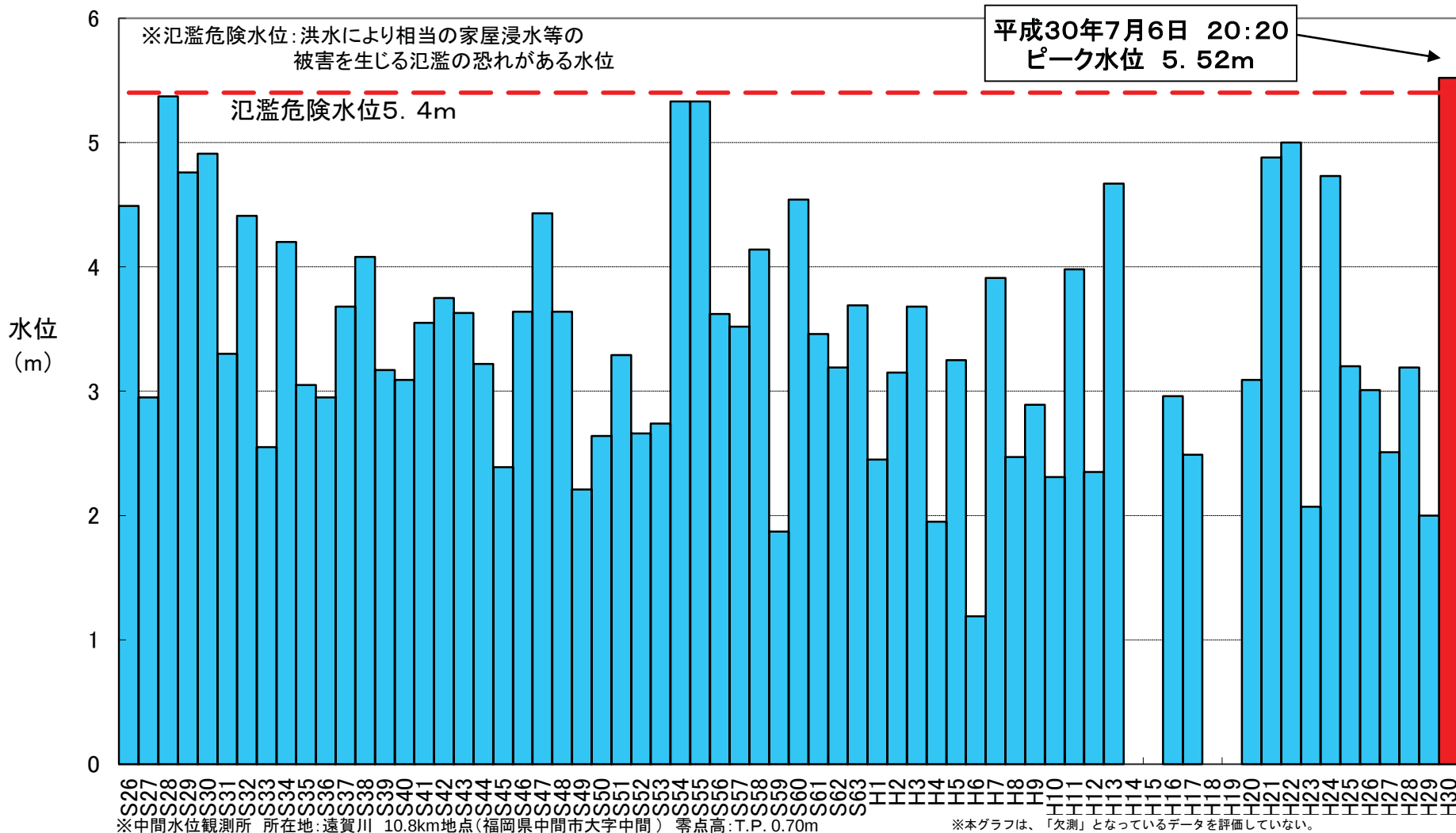
※本グラフは、「欠測」となっているデータを評価していない。

4. 水位の概要③-1（遠賀川水系遠賀川）

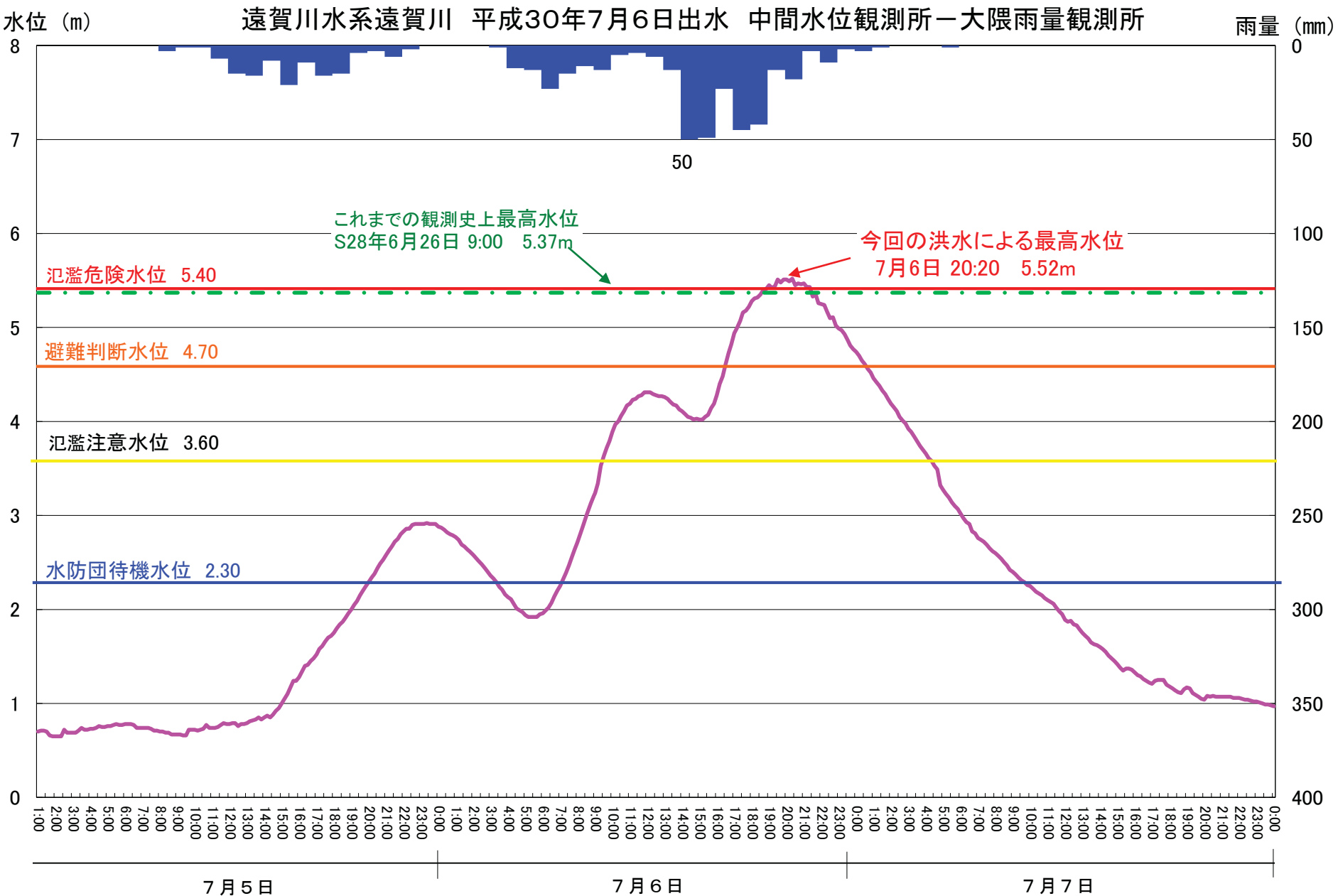
遠賀川水系遠賀川の中間（なかま）水位観測所において、7月6日20時20分に観測史上最高水位となる5.52mを記録しました。

遠賀川（中間水位観測所）の年最高水位比較図

※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。



4. 水位の概要③-2 (遠賀川水系遠賀川)



※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

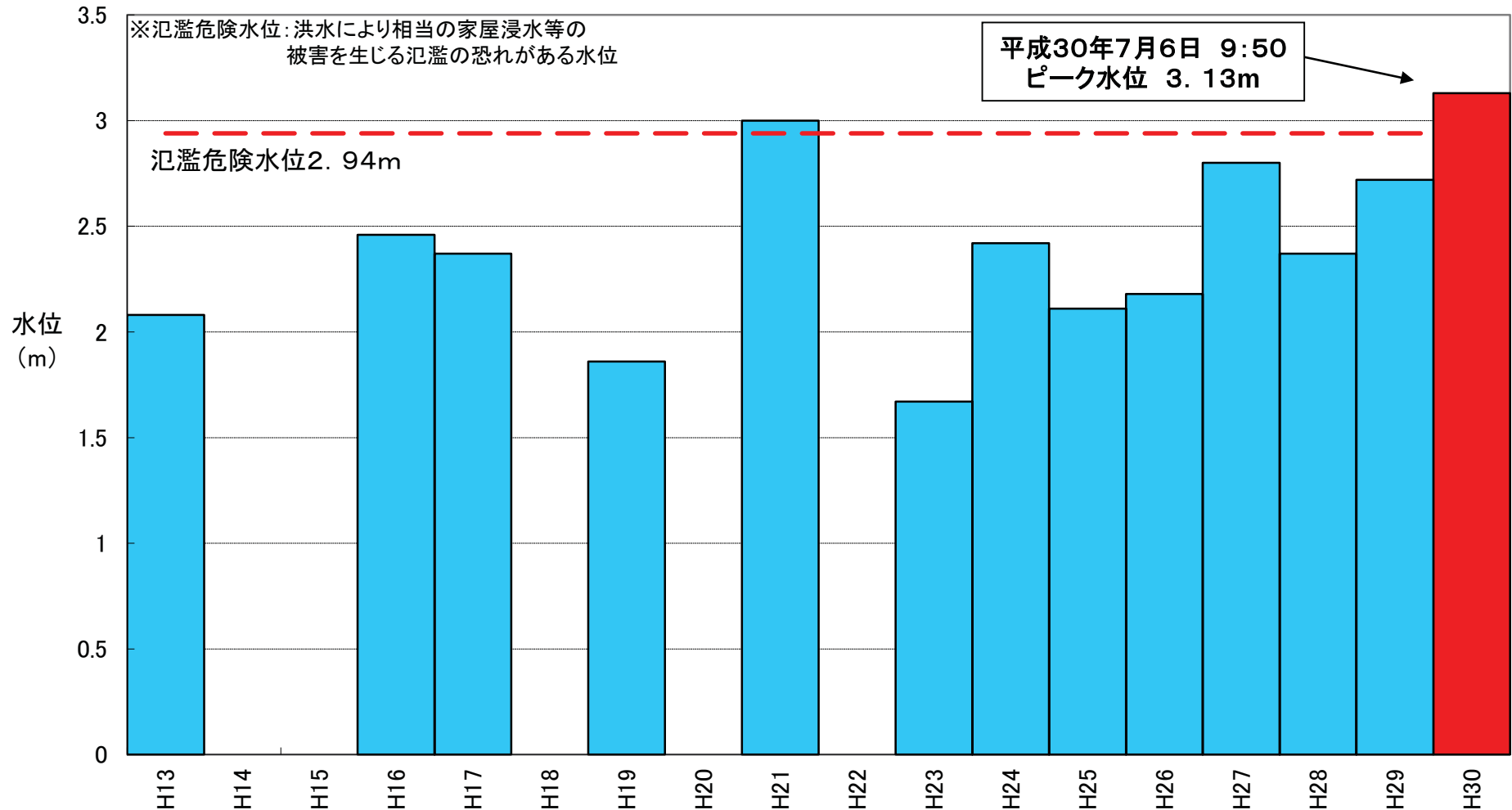
※本グラフは、「欠測」となっているデータを評価していない。

4. 水位の概要④-1（遠賀川水系笹尾川）

遠賀川水系笹尾川の野面（のぶ）水位観測所において、7月6日9時50分に観測史上最高水位となる3.13mを記録しました。

笹尾川（野面水位観測所）の年最高水位比較図

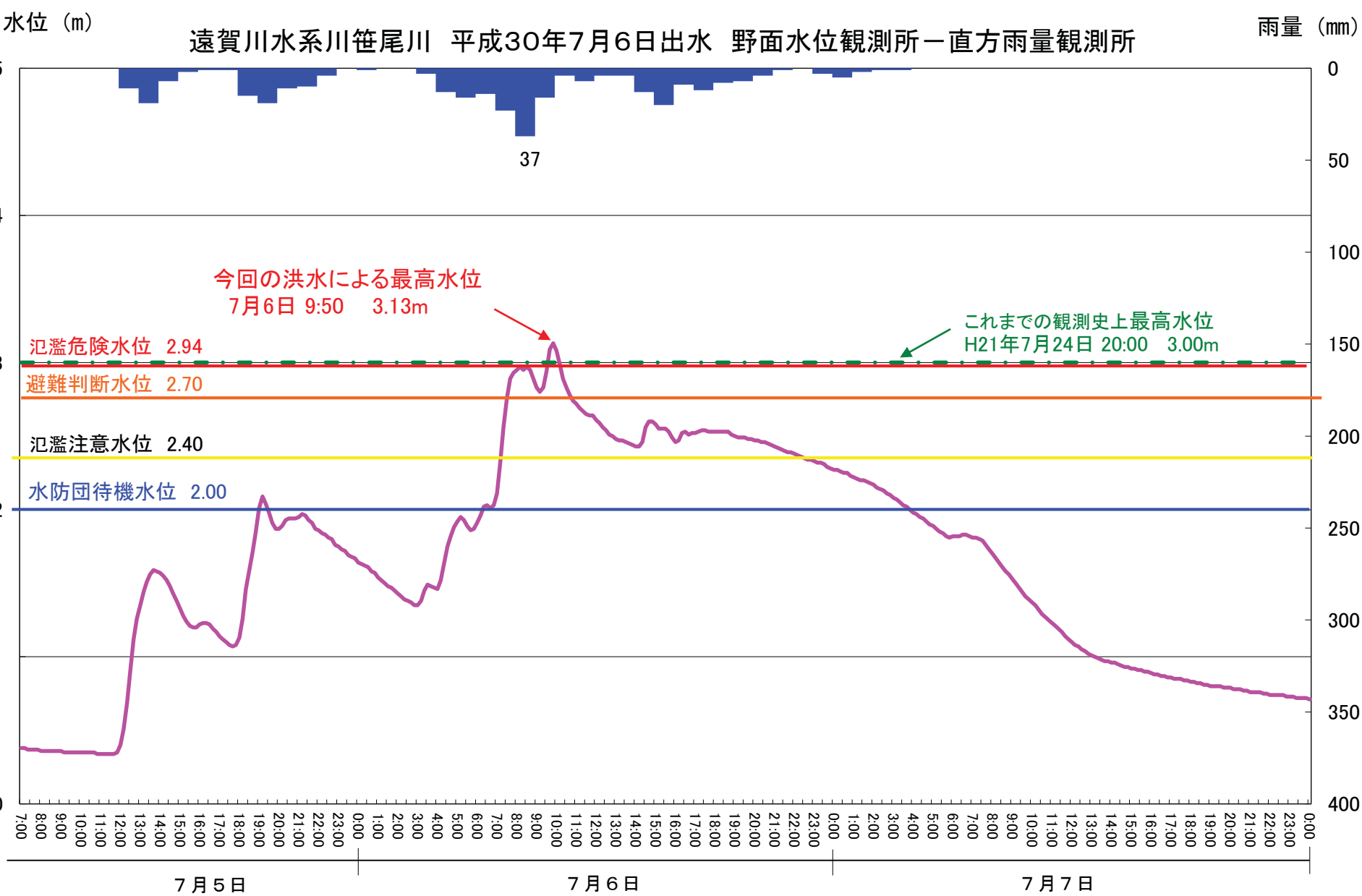
※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。



※野面水位観測所 所在地：笹尾川 4.7km地点（福岡県北九州市八幡西区大字野面） 零点高：T.P. 3.0m

※本グラフは、「欠測」となっているデータを評価していない。

4. 水位の概要④-2 (遠賀川水系笹尾川)



※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

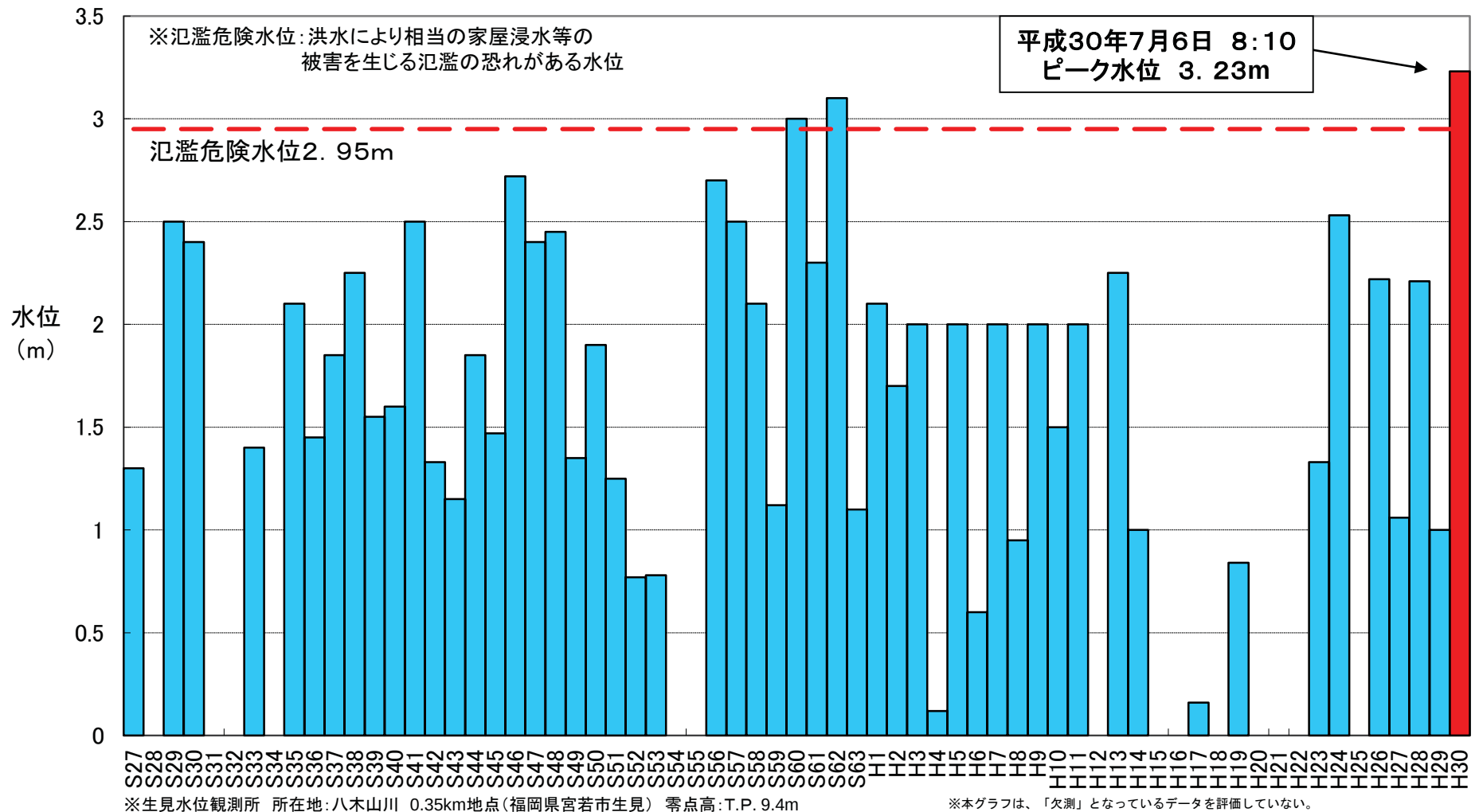
※本グラフは、「欠測」となっているデータを評価していない。

4. 水位の概要⑤-1（遠賀川水系八木山川）

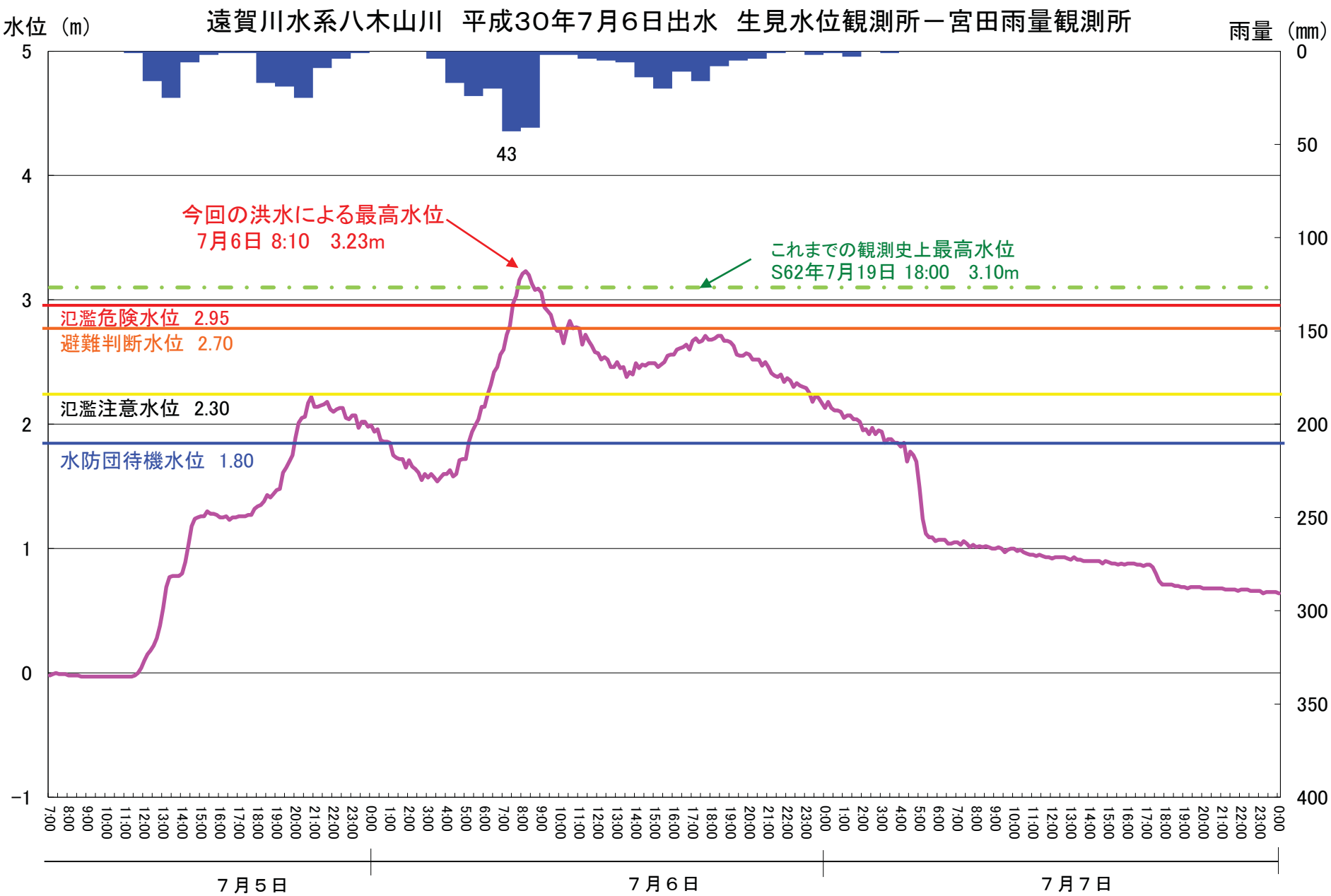
遠賀川水系八木山川の生見(ぬくみ)水位観測所において、7月6日8時10分に観測史上最高水位となる3.23mを記録しました。

八木山川(生見水位観測所)の年最高水位比較図

※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。



4. 水位の概要⑤-2遠賀川水系八木山川)



※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

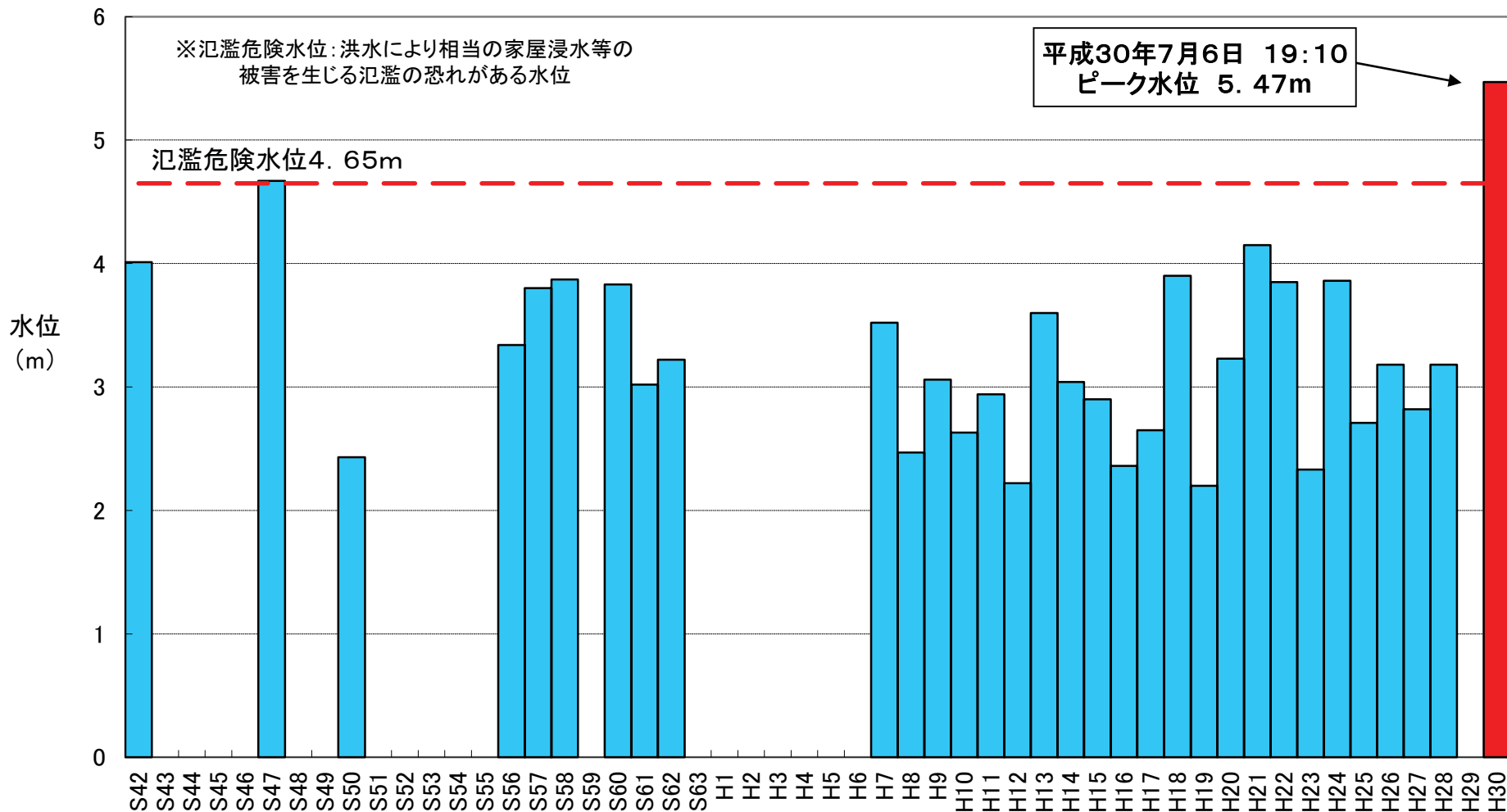
※本グラフは、「欠測」となっているデータを評価していない。

4. 水位の概要⑥-1（筑後川水系宝満川）

筑後川水系宝満川の端間（はたま）水位観測所において、7月6日19時10分に観測史上最高水位となる5.47mを記録しました。

宝満川（端間水位観測所）の年最高水位比較図

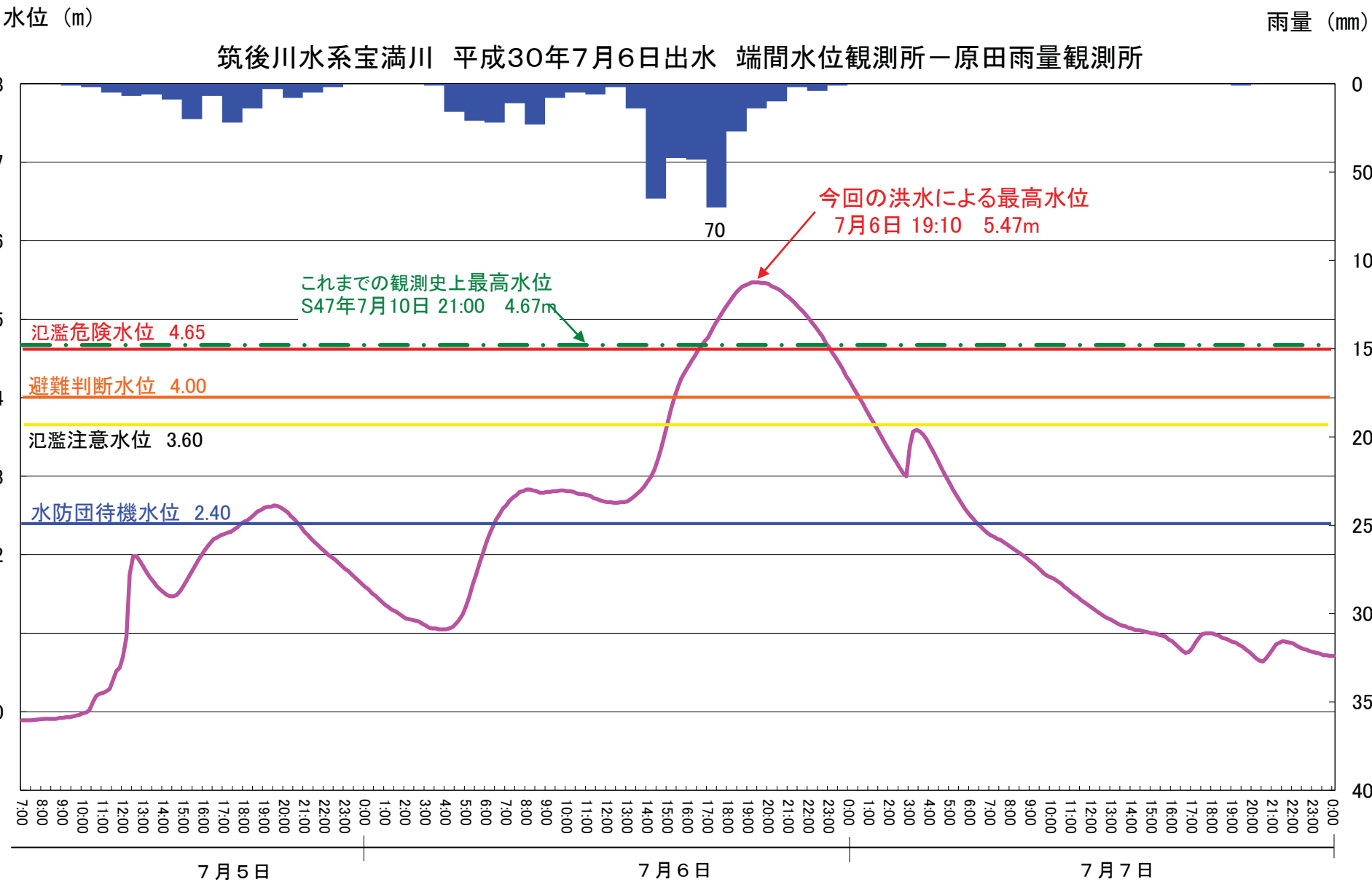
※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。



※端間水位観測所 所在地：宝満川 7.93km地点（福岡県小郡市福童） 零点高：T.P. 6.8m

※本グラフは、「欠測」となっているデータを評価していない。

4. 水位の概要⑥-2 (筑後川水系宝満川)



※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

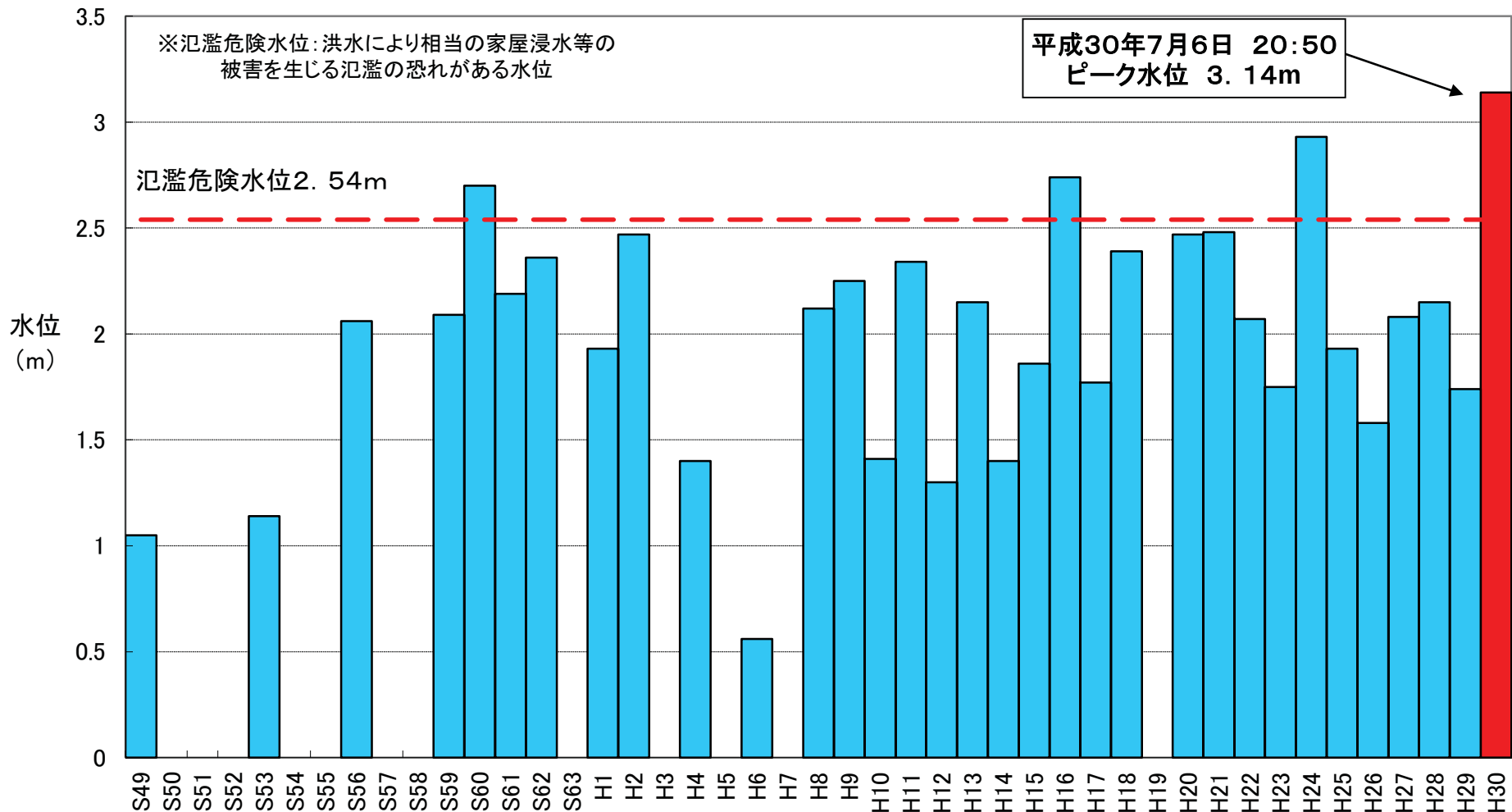
※本グラフは、「欠測」となっているデータを評価していない。

4. 水位の概要⑦-1（筑後川水系巨瀬川）

筑後川水系巨瀬川の中央橋（ちゅうおうばし）水位観測所において、7月6日20時50分に観測史上最高水位となる3.14mを記録しました。

巨瀬川（中央橋水位観測所）の年最高水位比較図

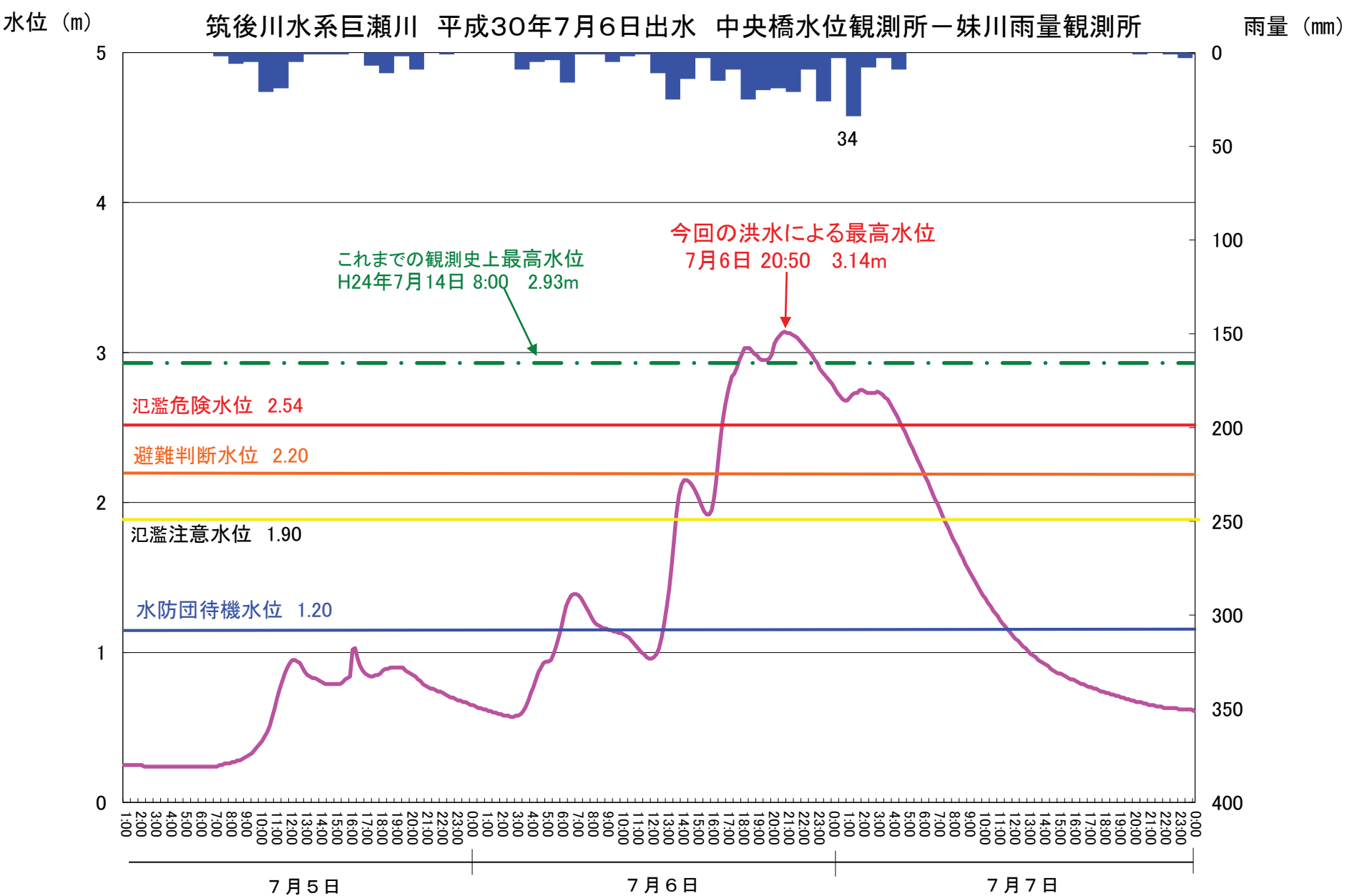
※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。



※中央橋水位観測所 所在地：巨瀬川 9.98km地点（福岡県久留米市田主丸町田主丸） 零点高：T.P. 15.2m

※本グラフは、「欠測」となっているデータを評価していない。

4. 水位の概要⑦-2（筑後川水系巨瀬川）



※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

※本グラフは、「欠測」となっているデータを評価していない。

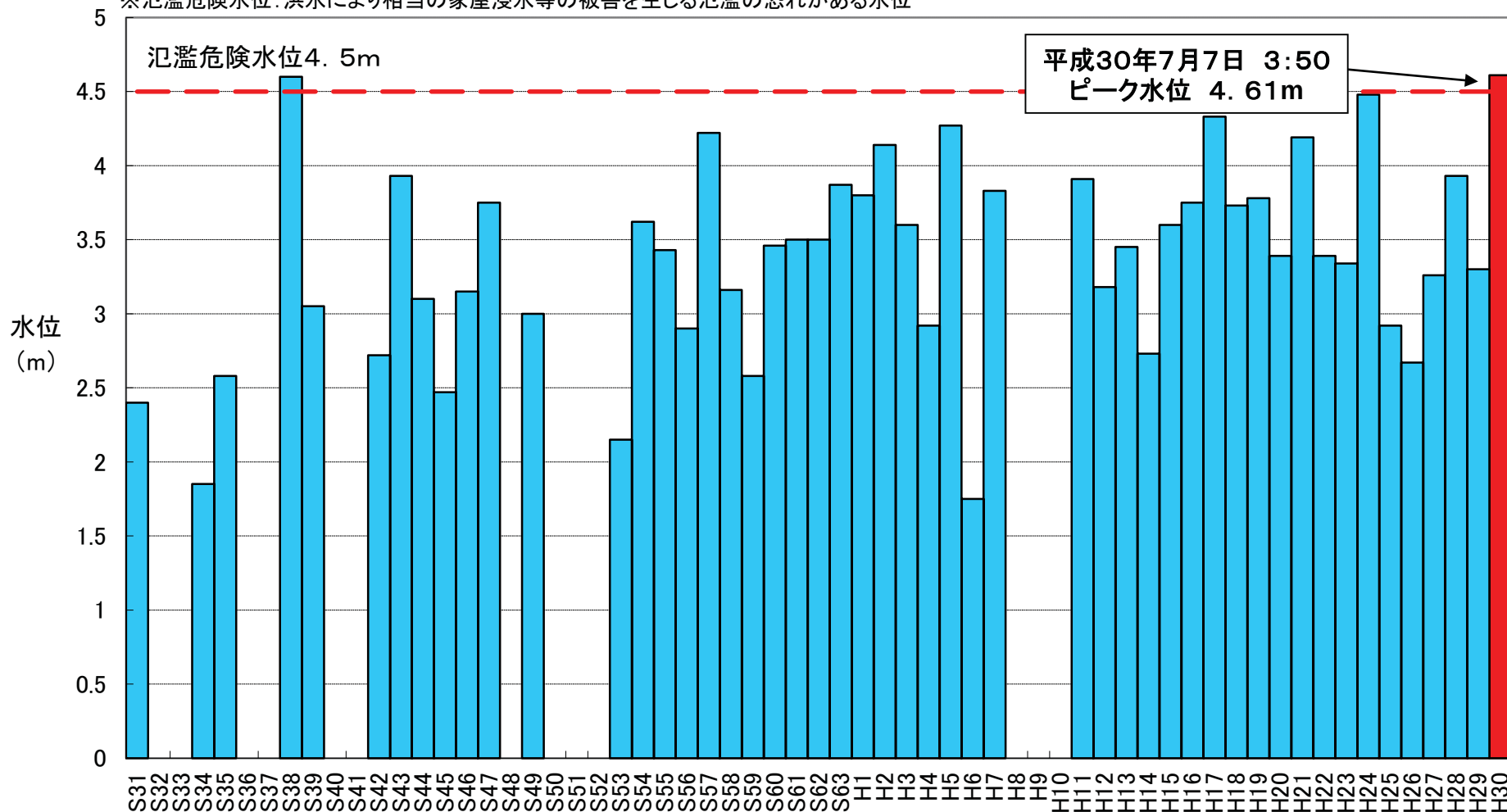
4. 水位の概要⑧-1（筑後川水系筑後川）

筑後川水系筑後川の小渕（こぶち）水位観測所において、7月7日3時50分に観測史上最高水位となる4.61mを記録しました。

筑後川（小渕水位観測所）の年最高水位比較図

※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

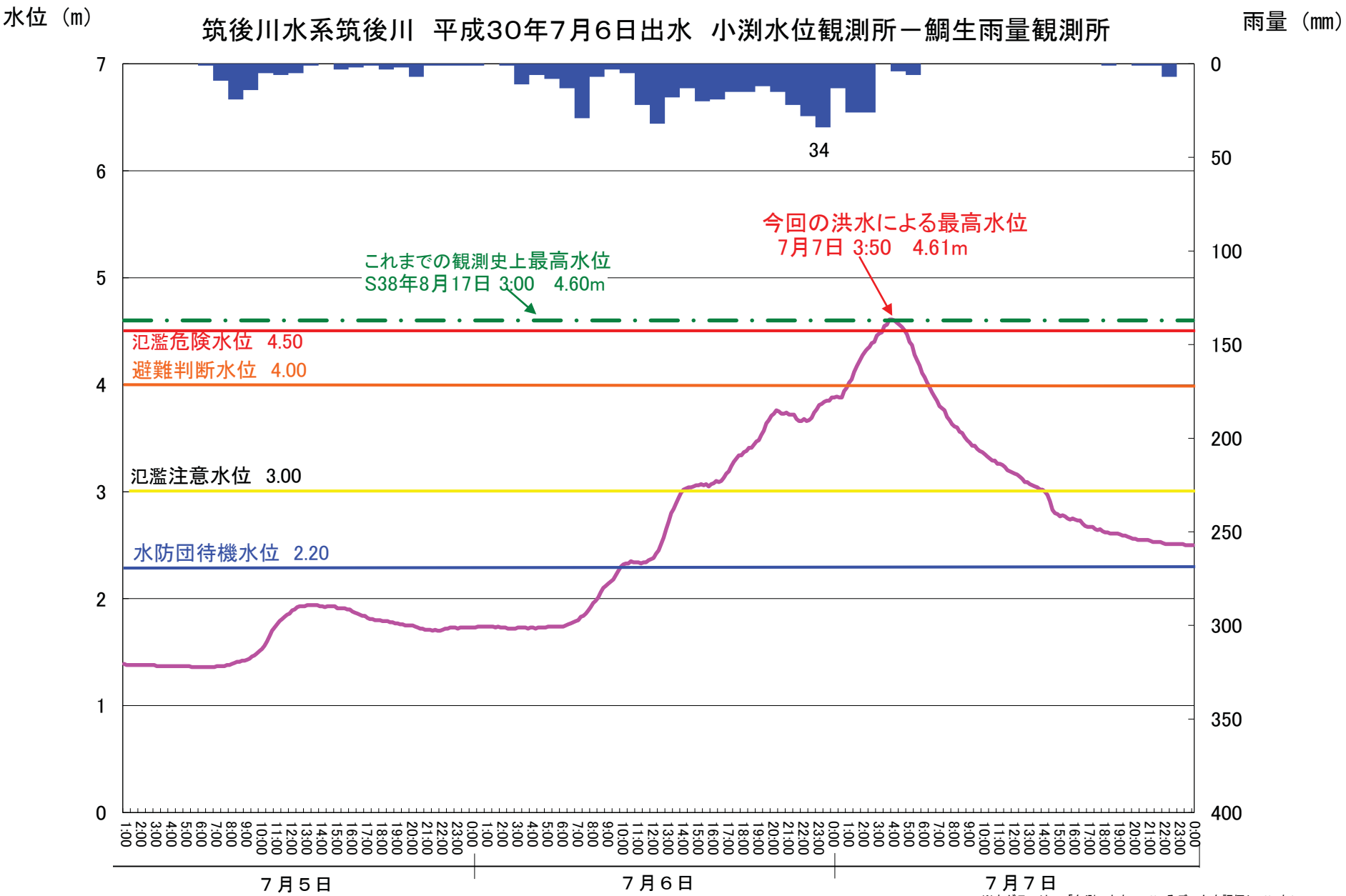
※氾濫危険水位：洪水により相当の家屋浸水等の被害を生じる氾濫の恐れがある水位



※小渕水位観測所 所在地:筑後川 76.59km地点(大分県日田市若宮町) 零点高:T.P. 85.0m

※本グラフは、「欠測」となっているデータを評価していない。

4. 水位の概要⑧-2 (筑後川水系筑後川)



※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

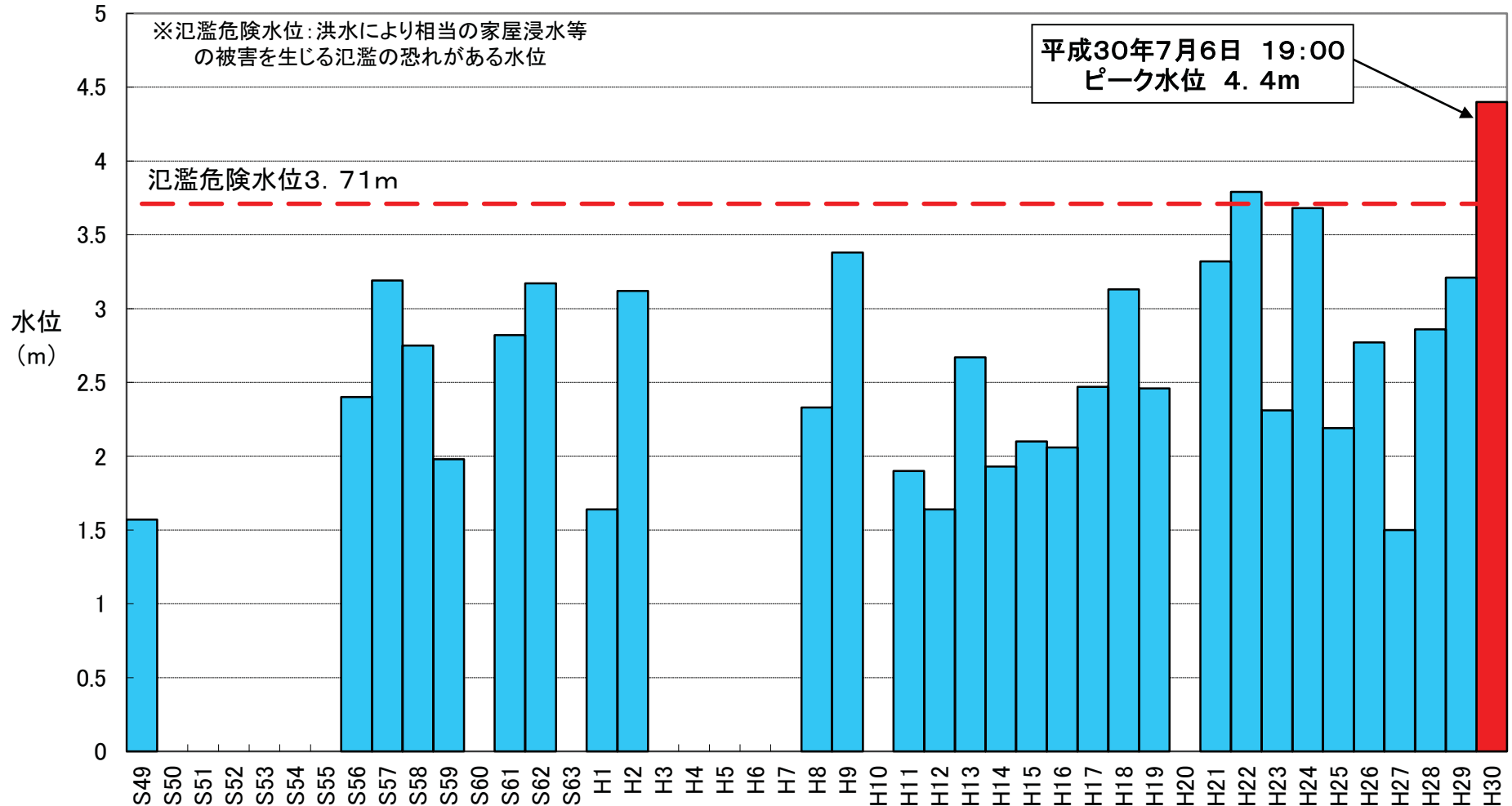
※本グラフは、「欠測」となっているデータを評価していない。

4. 水位の概要⑨-1（筑後川水系小石原川）

筑後川水系小石原川の栄田橋（さかえだばし）水位観測所において、7月6日19時00分に観測史上最高水位となる4.40mを記録しました。

小石原川（栄田橋水位観測所）の年最高水位比較図

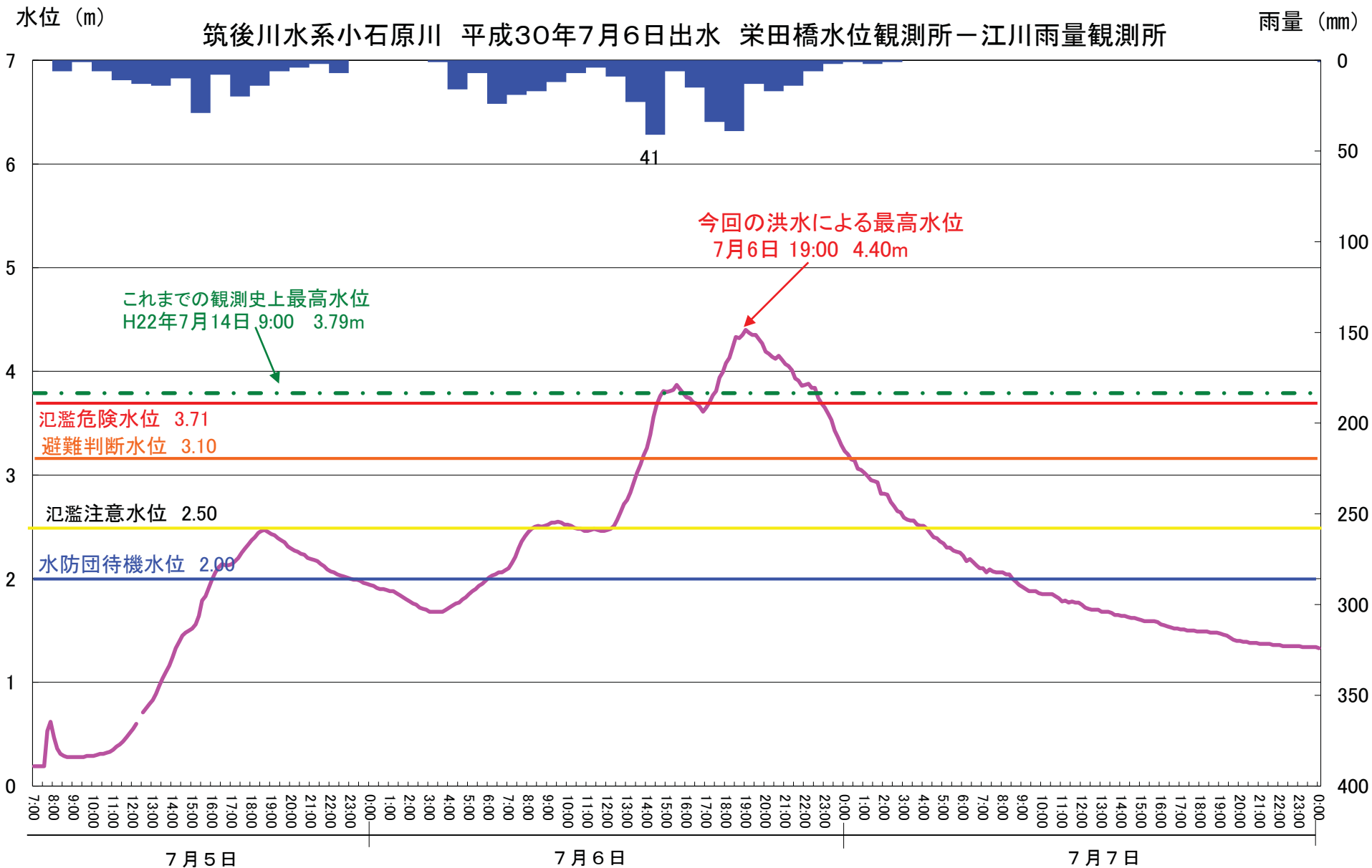
※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。



※栄田橋水位観測所 所在地：小石原川 3.24km地点（福岡県三井郡大刀洗町栄田） 零点高：T.P. 13.3m

※本グラフは、「欠測」となっているデータを評価していない。

4. 水位の概要⑨-2（筑後川水系小石原川）



※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

※本グラフは、「欠測」となっているデータを評価していない。

5. 出水状況写真

【 遠賀川水系 】

遠賀川水系遠賀川 19K800右岸カメラ



【 筑後川水系 】

筑後川水系筑後川40K400左岸カメラ



遠賀川水系遠賀川30K500右岸カメラ



筑後川水系宝満川07K940右岸カメラ



5. 出水状況写真

【 山国川水系 】

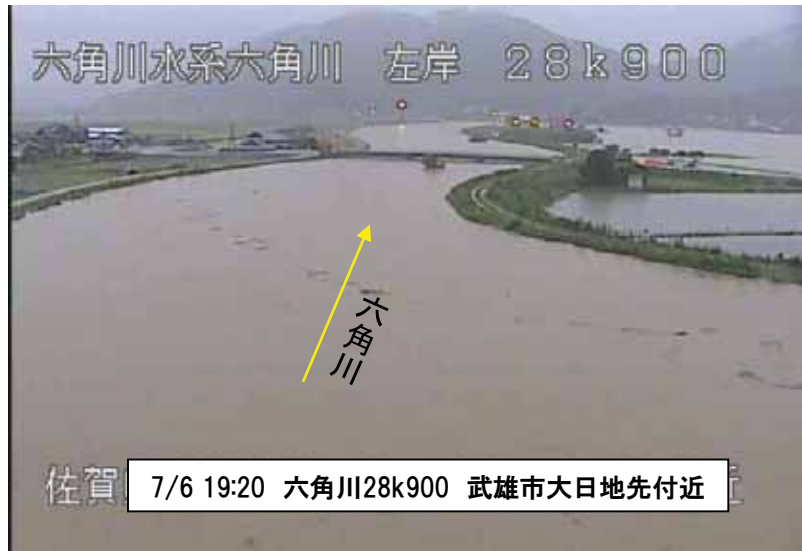


【 松浦川水系 】

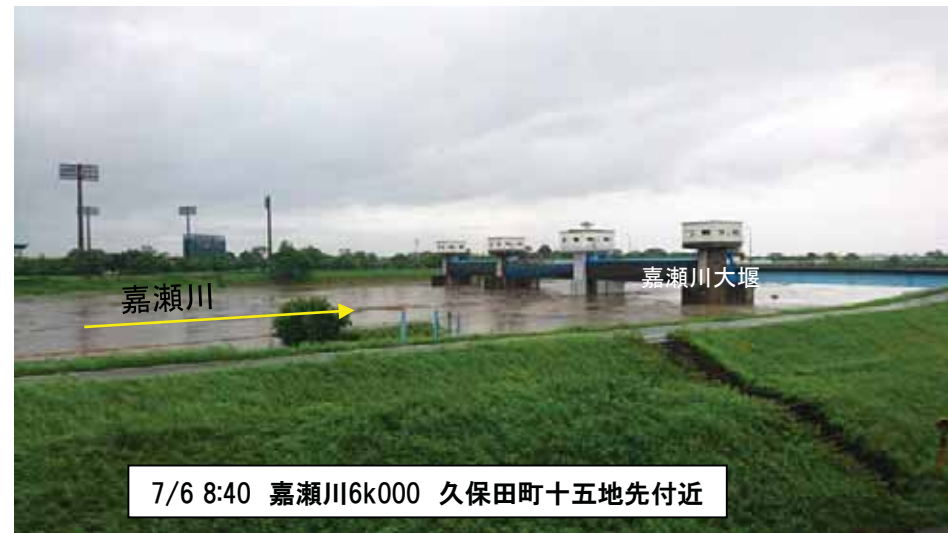


5. 出水状況写真

【 六角川水系 】



【 嘉瀬川水系 】



5. 出水状況写真

【 菊池川水系 】



【 球磨川水系 】



6. 被災箇所位置（松浦川水系）



6. 緊急復旧工事の状況（松浦川水系徳須恵川6k830付近）

○ 松浦川水系徳須恵川で、河岸決壊に伴う護岸の崩落が生じた区間において、早期復旧に向け24時間態勢で緊急復旧工事を実施しました。（7月6日着手、13日9時完了）



撮影日2018. 7. 6 8時00分



撮影日2018. 7. 8 14時00分



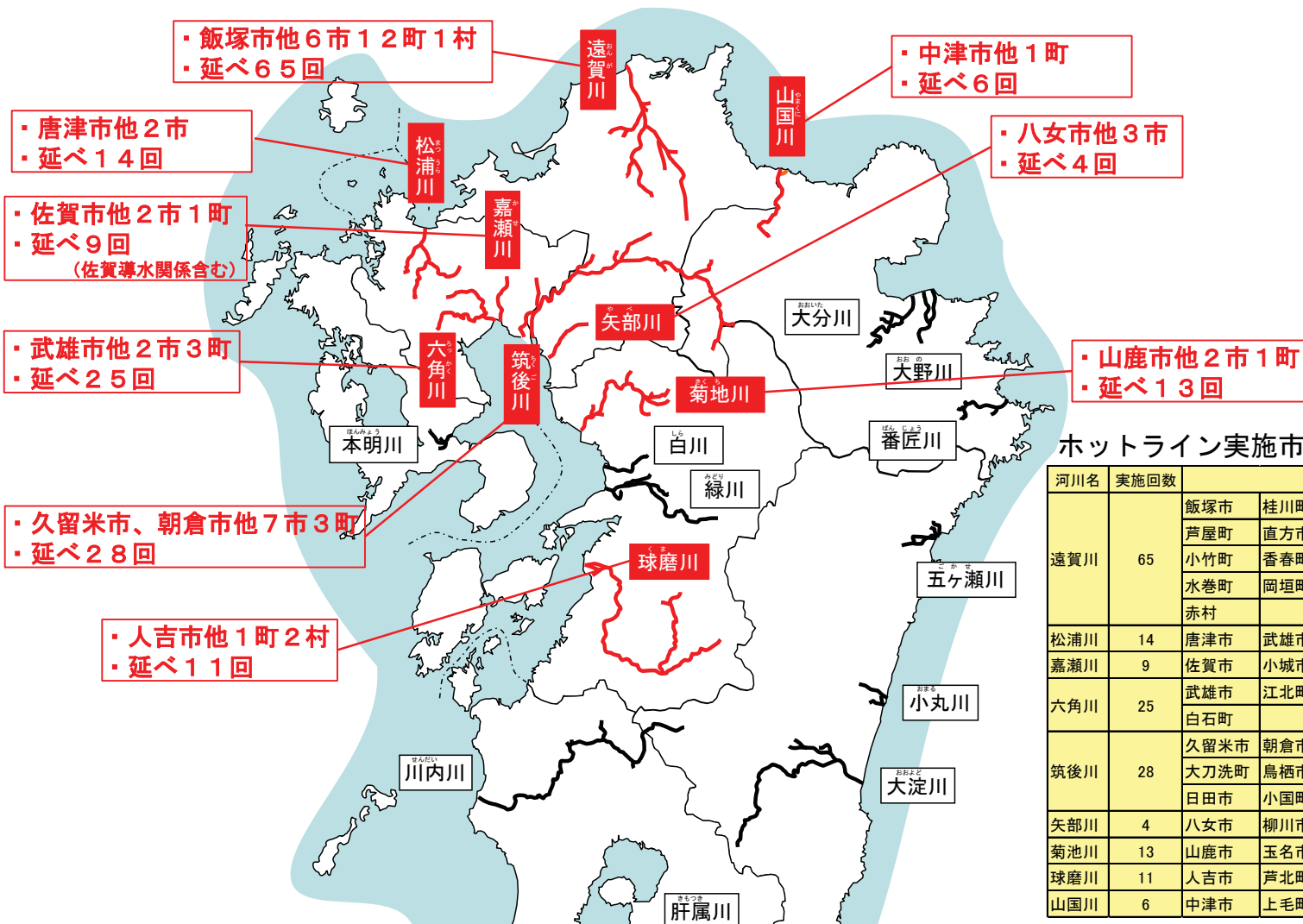
撮影日2018. 7. 7 4時00分



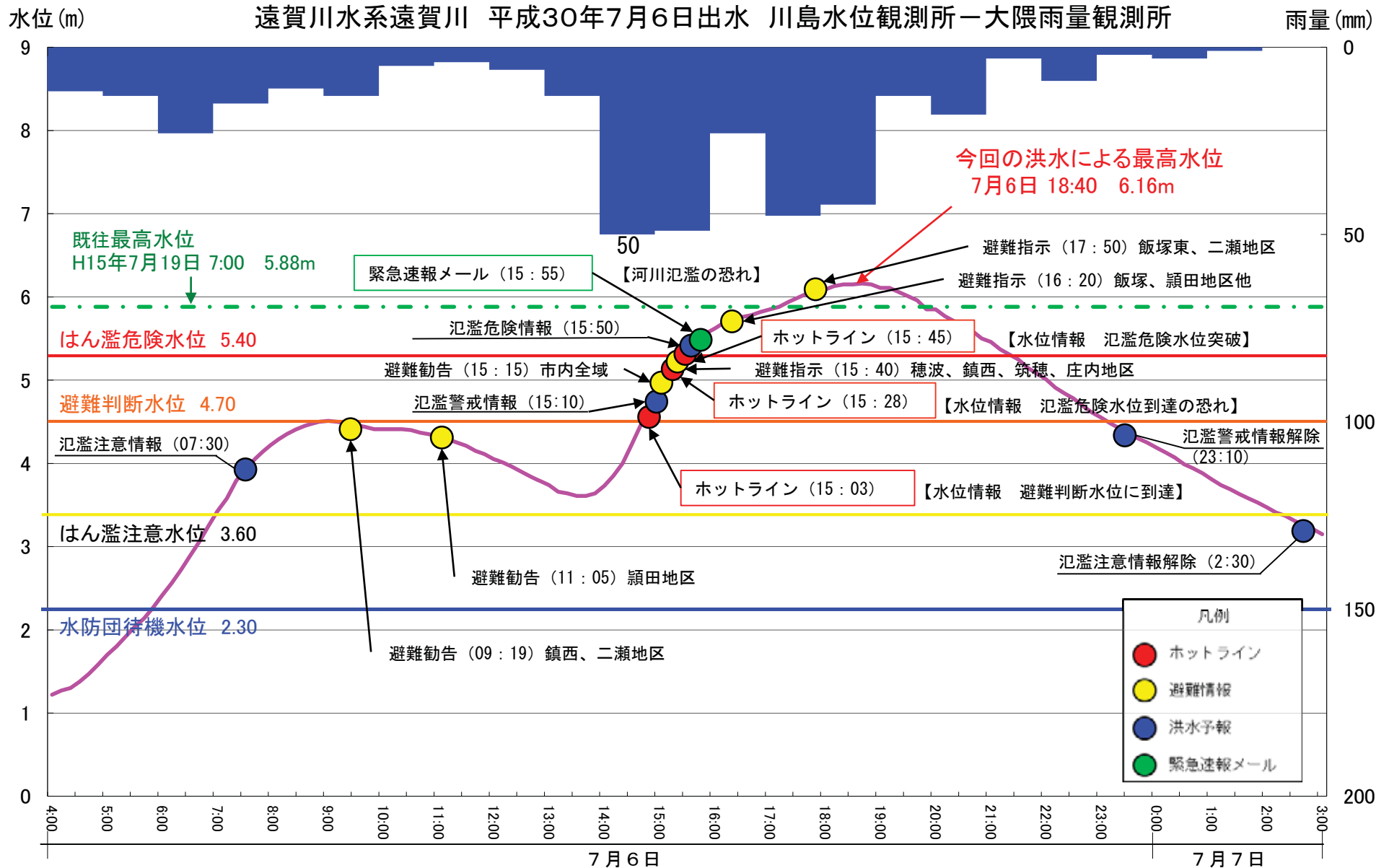
撮影日2018. 7. 13 9時00分

流域首長とのきめ細やかな情報共有を実施

○直轄河川において、30市21町3村に対し延べ175回のホットラインを実施しました。



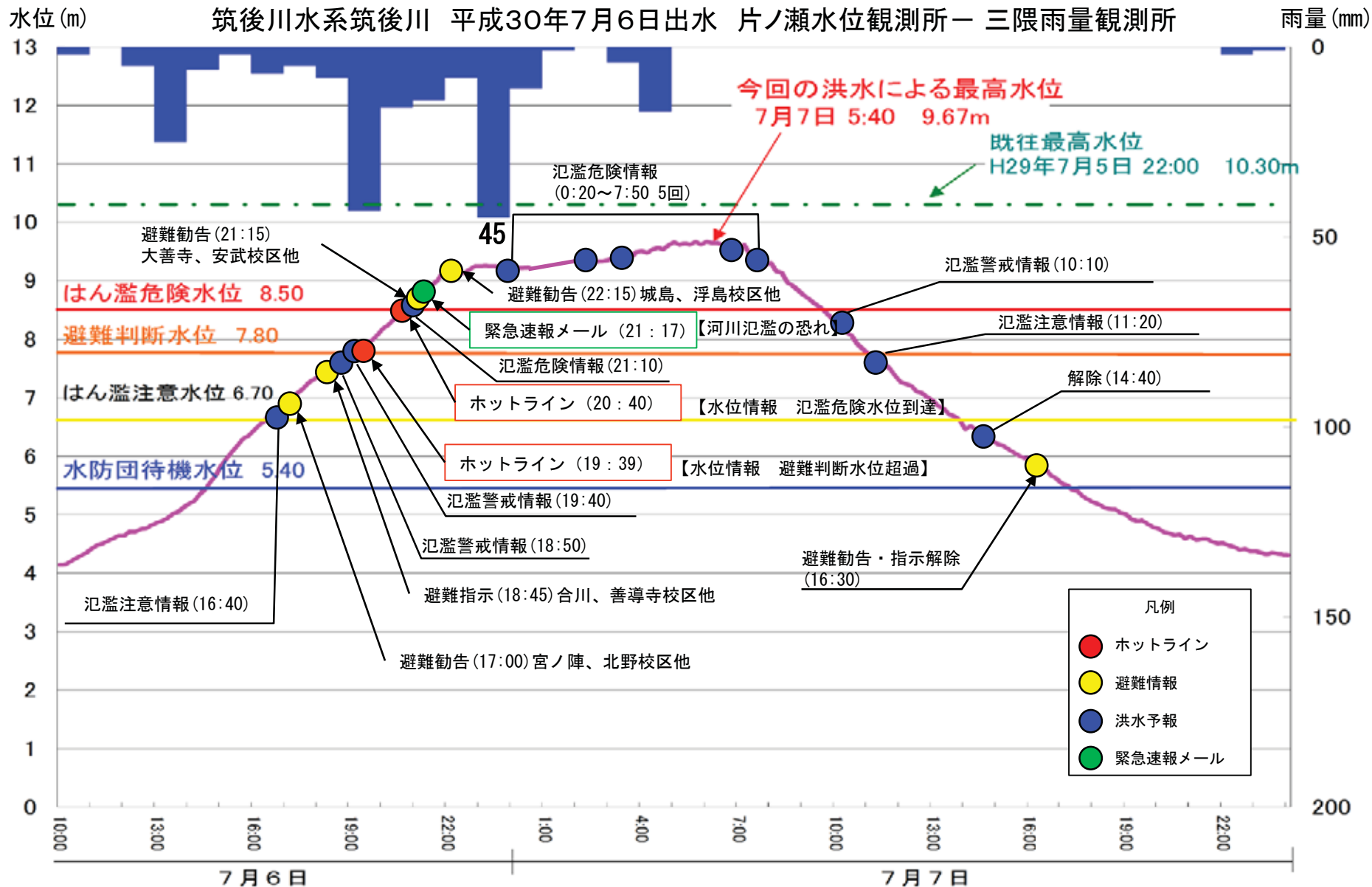
7. ホットライン状況（遠賀川水系遠賀川）【国交省→飯塚市】



※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。
※洪水予報、避難勧告・避難指示は、遠賀川に関係している部分のみを記載しています。

※本グラフは、「欠測」となっているデータを評価していない。

7. ホットライン状況（筑後川水系筑後川）【国交省→久留米市】

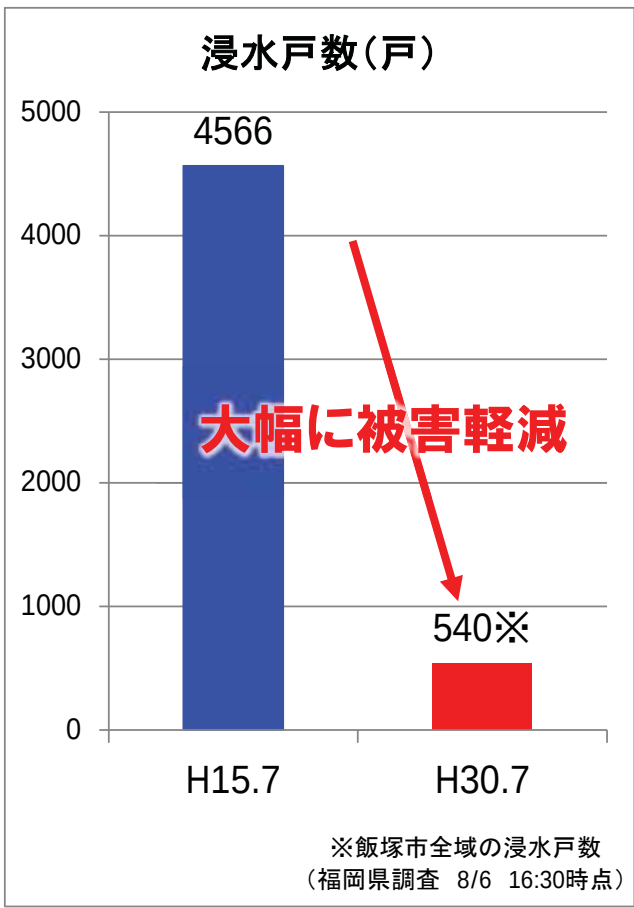
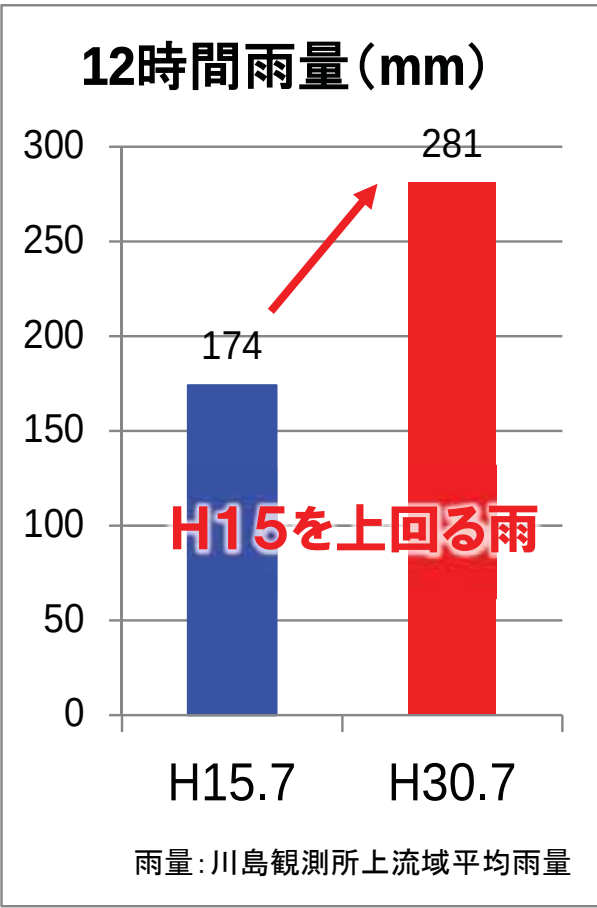


※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。
※洪水予報、避難勧告・避難指示は、筑後川に関係している部分のみを記載しています。

※本グラフは、「欠測」となっているデータを評価していない。

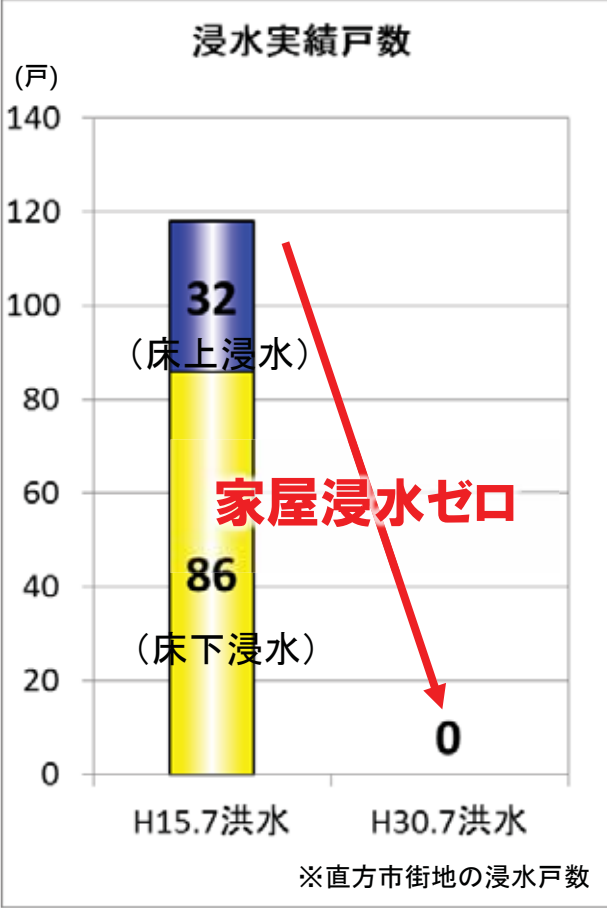
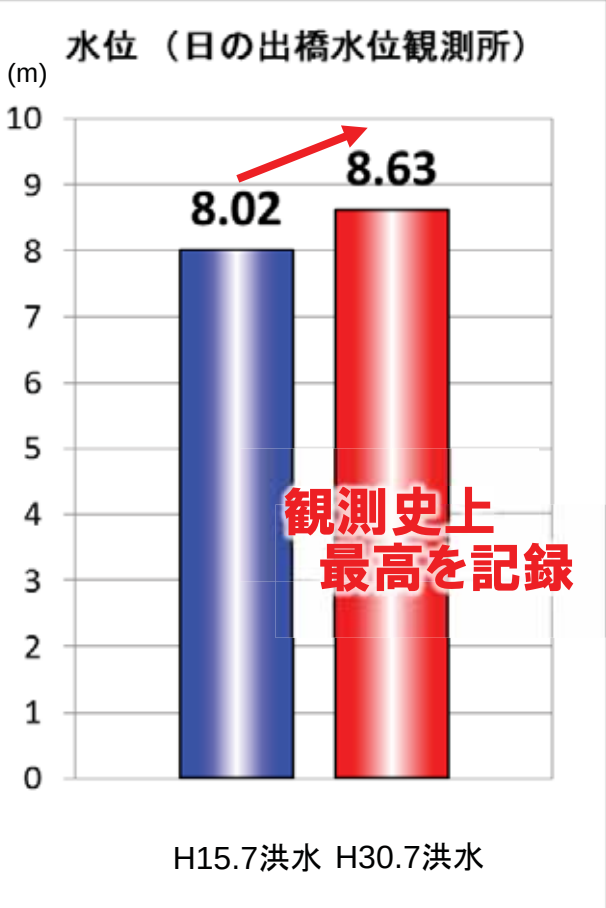
平成15年7月洪水の1.6倍の降雨、被害大幅に減少

- 遠賀川では平成15年7月洪水を受け、「床上浸水対策特別緊急事業」を実施しました。（平成16～20年度）
- 河道掘削、橋梁架替、排水機場等の河川整備を行った結果、今回の豪雨では大幅に被害軽減されました。



観測史上最高水位を更新したが、家屋浸水なし

- 遠賀川では平成15年7月洪水を受け、「床上浸水対策特別緊急事業」を実施しました。（平成17～21年度）
- 排水機場の新設と直方市による放水路等の整備の結果、今回の豪雨では家屋浸水は発生しませんでした。



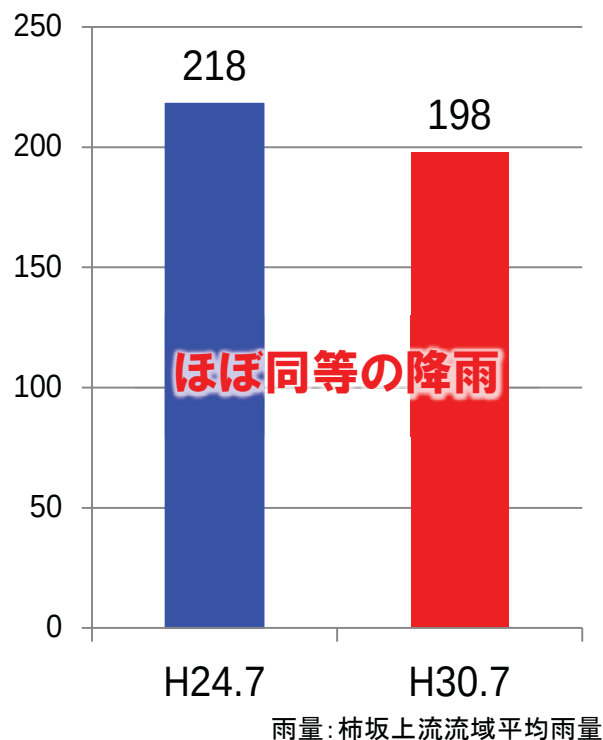
※本資料の数値は速報値及び暫定値であるため、今後の調査結果 等で変わる可能性があります。

8. 治水事業の効果（山国川の河川事業による効果）

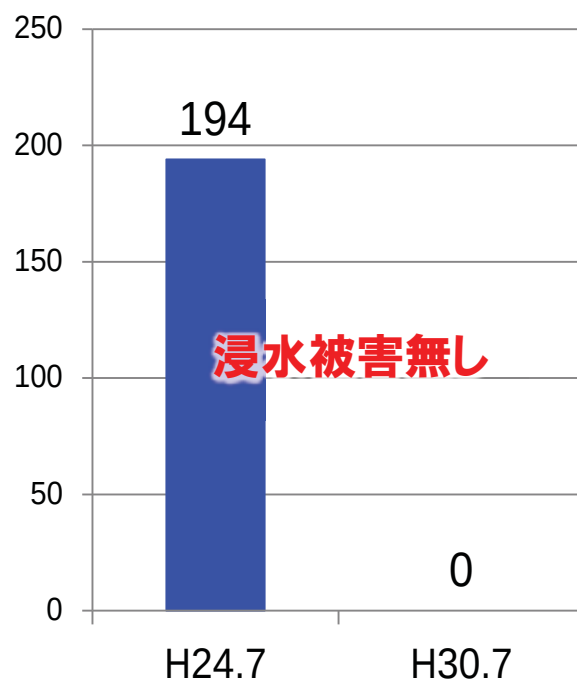
平成24年7月洪水時と**ほぼ同規模の降雨**に対し、**浸水被害無し**

- 山国川中流部では、平成24年7月3日、14日洪水を受け、「床上浸水対策特別緊急事業」を実施しました。（平成25～30年度）
- 築堤・護岸、河道掘削、樹木伐採等の河川整備を行った結果、今回の豪雨では家屋の浸水被害は発生しませんでした。

12時間雨量(mm)



浸水戸数(戸)

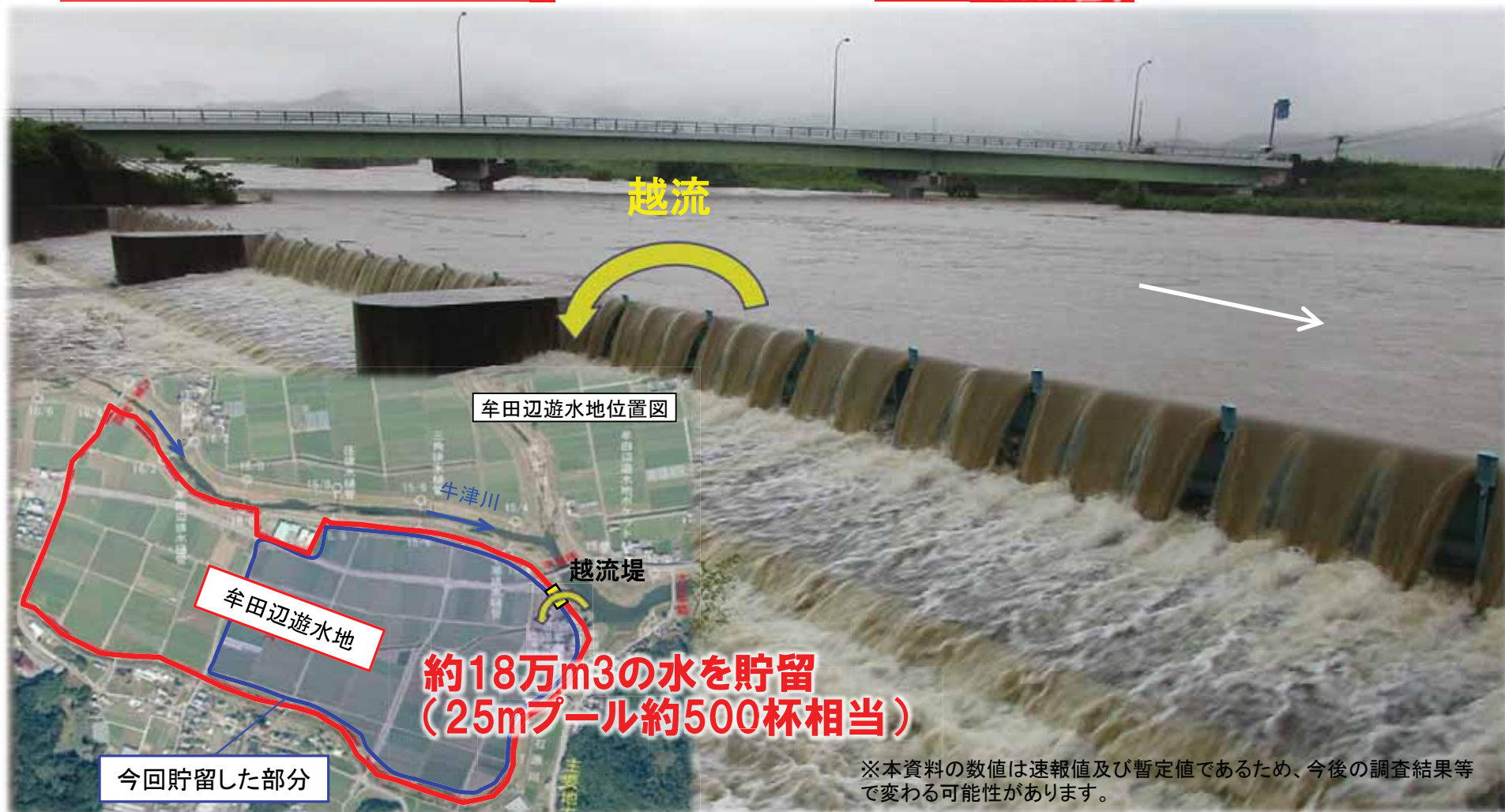


8. 治水事業の効果（六角川の河川整備による効果）

遊水地下流の妙見橋地点で水位を約30cm低下

○六角川水系牛津川では平成2年7月洪水を受け、「牟田辺遊水地」を整備しました。

○25mプール約500杯分の洪水を貯留し、下流の妙見橋地点で水位を約30cm低下させる効果を発揮しました。



出水期前に完了した応急復旧工事により、洪水を安全に流下

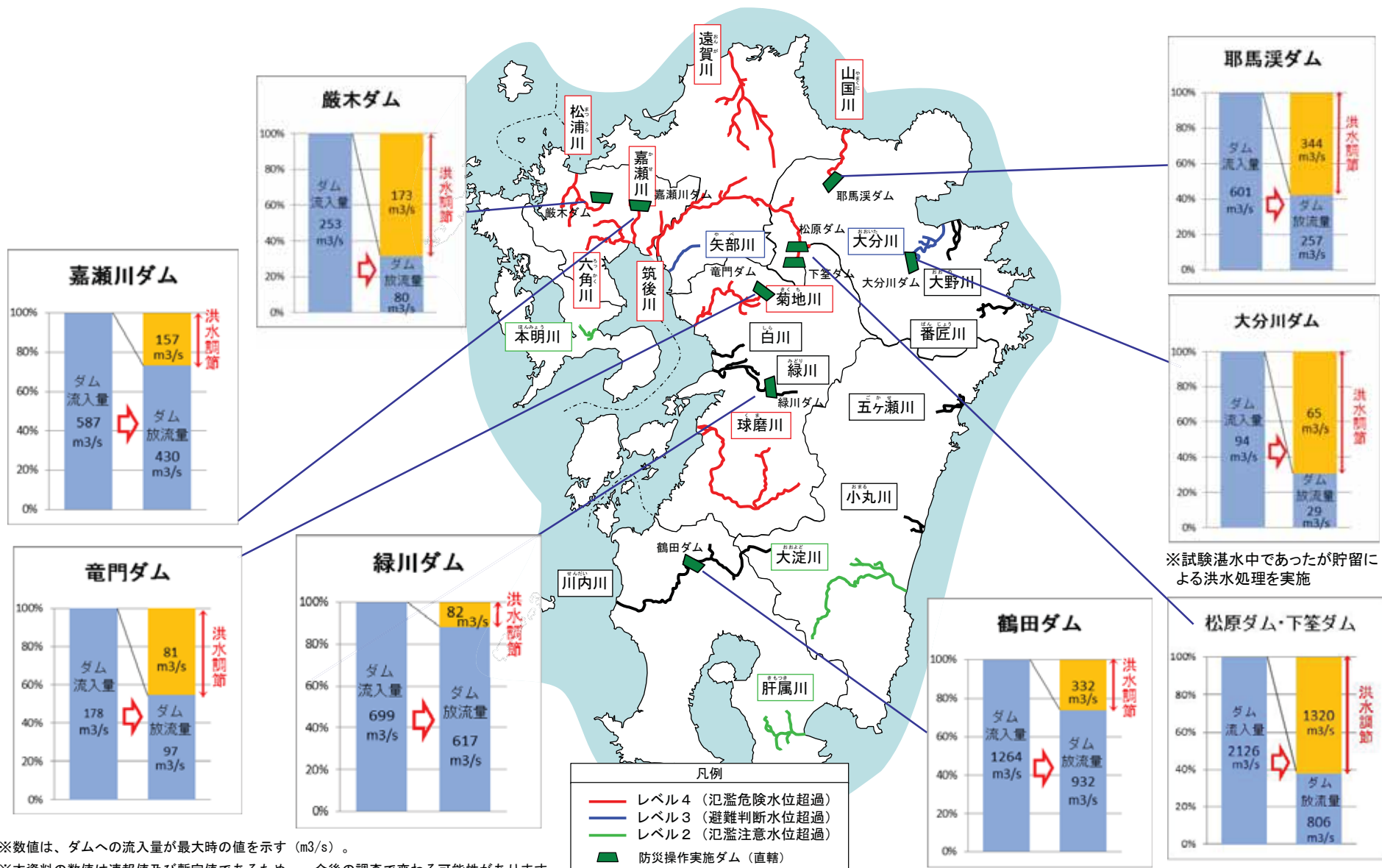
○平成29年7月の九州北部豪雨をうけ国による権限代行により応急復旧を実施、今回の豪雨で土砂を捕捉し下流への土砂の流出を抑制するとともに、洪水を安全に流下させました。



※本資料の数値は速報値及び暫定値であるため、今後の調査結果等で変わる可能性があります。

8. 治水事業の効果（直轄管理ダムの洪水調節状況）

九州のすべての直轄ダム(9ダム)で洪水調節を実施



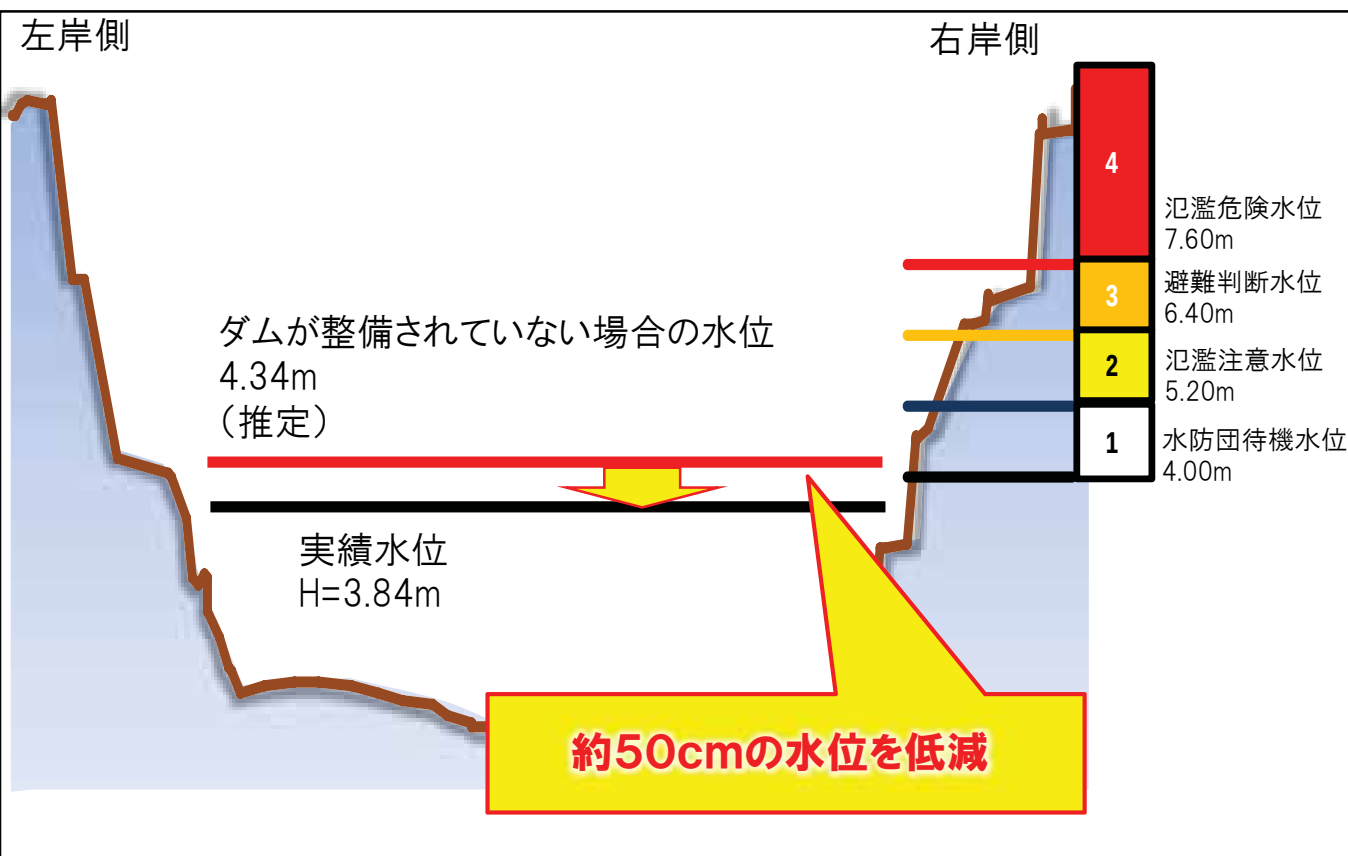
8. 治水事業の効果（川内川水系 鶴田ダム）

鶴田ダム下流の宮之城地点で水位を約50cm低減

○7月7日1時20分より防災操作を開始し、7月7日9時10分には332m³/秒をダムに貯留しました。

○鶴田ダムが整備されていなければ、宮之城地点で水位が約50cm上昇し、水防団待機水位を超過していたと推定されます。

宮之城地点(さつま町)



宮之城地点位置図



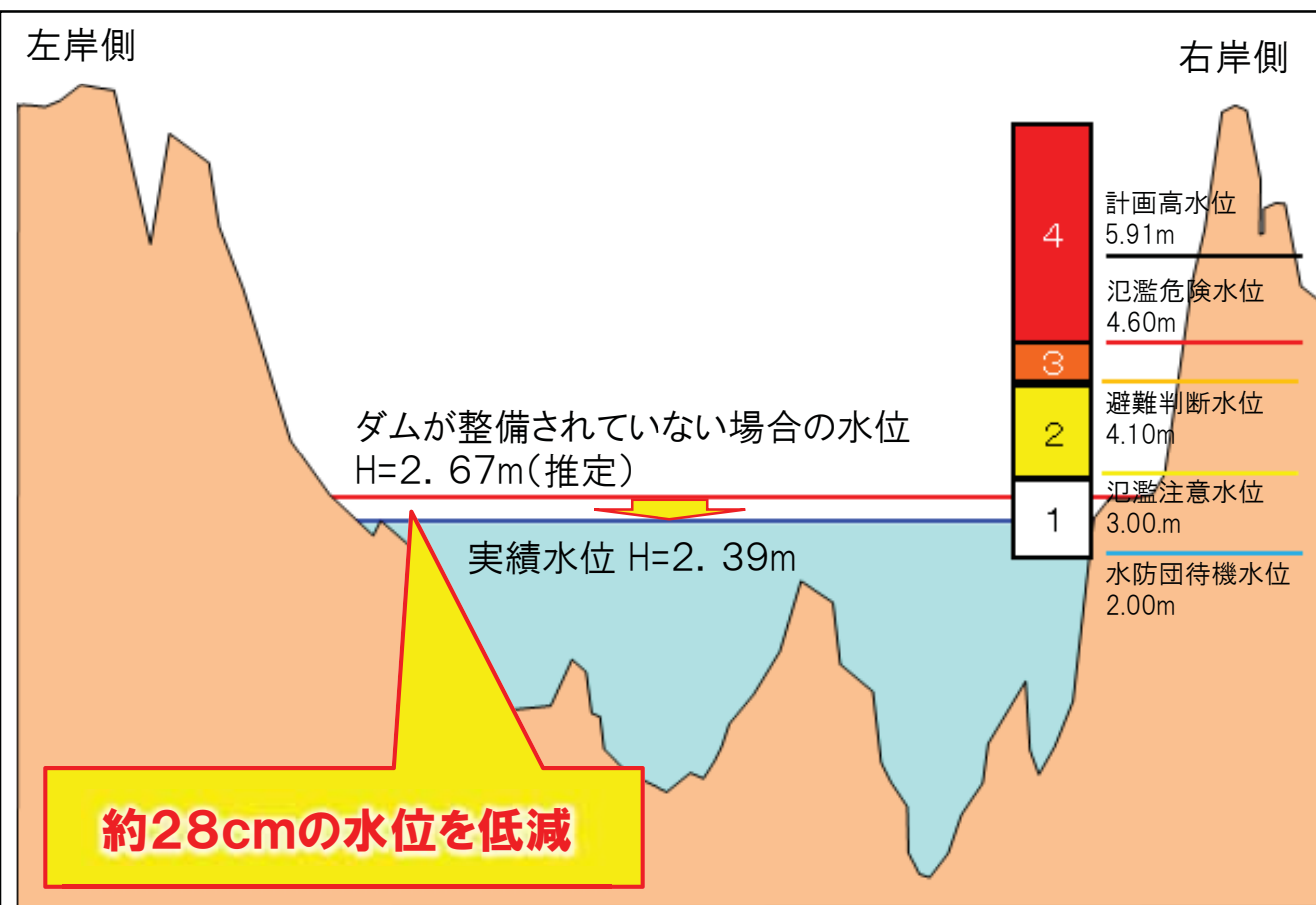
※数値は速報値であるため今後変わる可能性があります。

8. 治水事業の効果（^{みどりかわ}緑川水系 ^{みどりかわ}緑川ダム）

緑川ダム下流の中甲橋地点で水位を**約28cm低減**

- 7月7日5時00分より防災操作を開始し、7月7日6時20分には82m³/秒をダムに貯留しました。
- 緑川ダムが整備されていなければ、中甲橋地点で水位が約28cm上昇していたと推定されます。

中甲橋地点（美里町）



中甲橋地点位置図



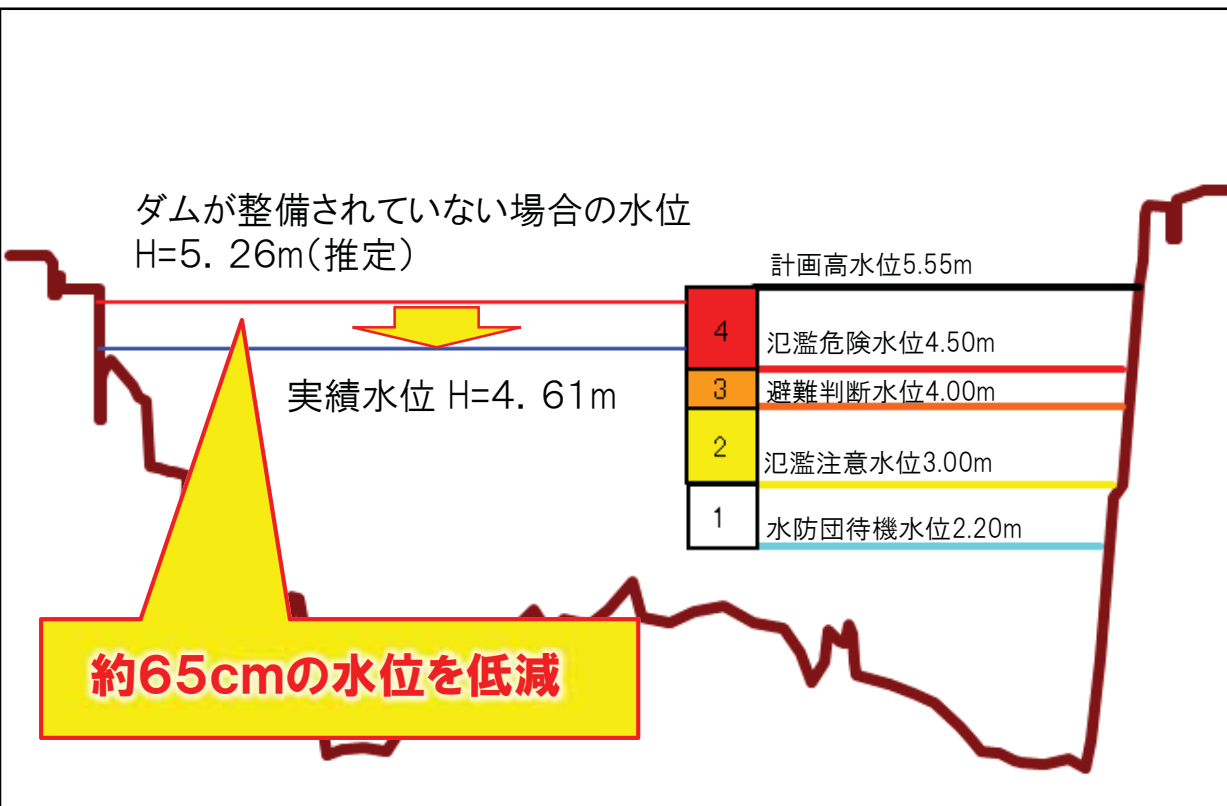
※数値は速報値であるため今後変わる可能性があります。

8. 治水事業の効果 (筑後川水系 松原ダム・下笠ダム)

松原・下笠ダム下流の小湊地点で水位を約65cm低減

- 松原ダムは7月7日0時2分、下笠ダムは7月6日11時57分より防災操作を開始し、7月7日2時40分には1320m³/秒を両ダムで貯留しました。
- 松原・下笠ダムが整備されていなければ、小湊地点で水位が約65cm上昇し計画高水位に約29cmまで迫っていたと推定されます。

小湊地点(日田市)



小湊地点位置図



※数値は速報値であるため今後変わる可能性があります。

耶馬溪ダム下流の上曽木地点で水位を約61cm低減

○7月6日16時58分より防災操作を開始し、7月6日19時30分には344m³/秒をダムに貯留しました。

○耶馬溪ダムが整備されていなければ、上曽木地点で水位が約61cm上昇していたと推定されます。

上曽木地点(中津市)

上曽木地点位置図



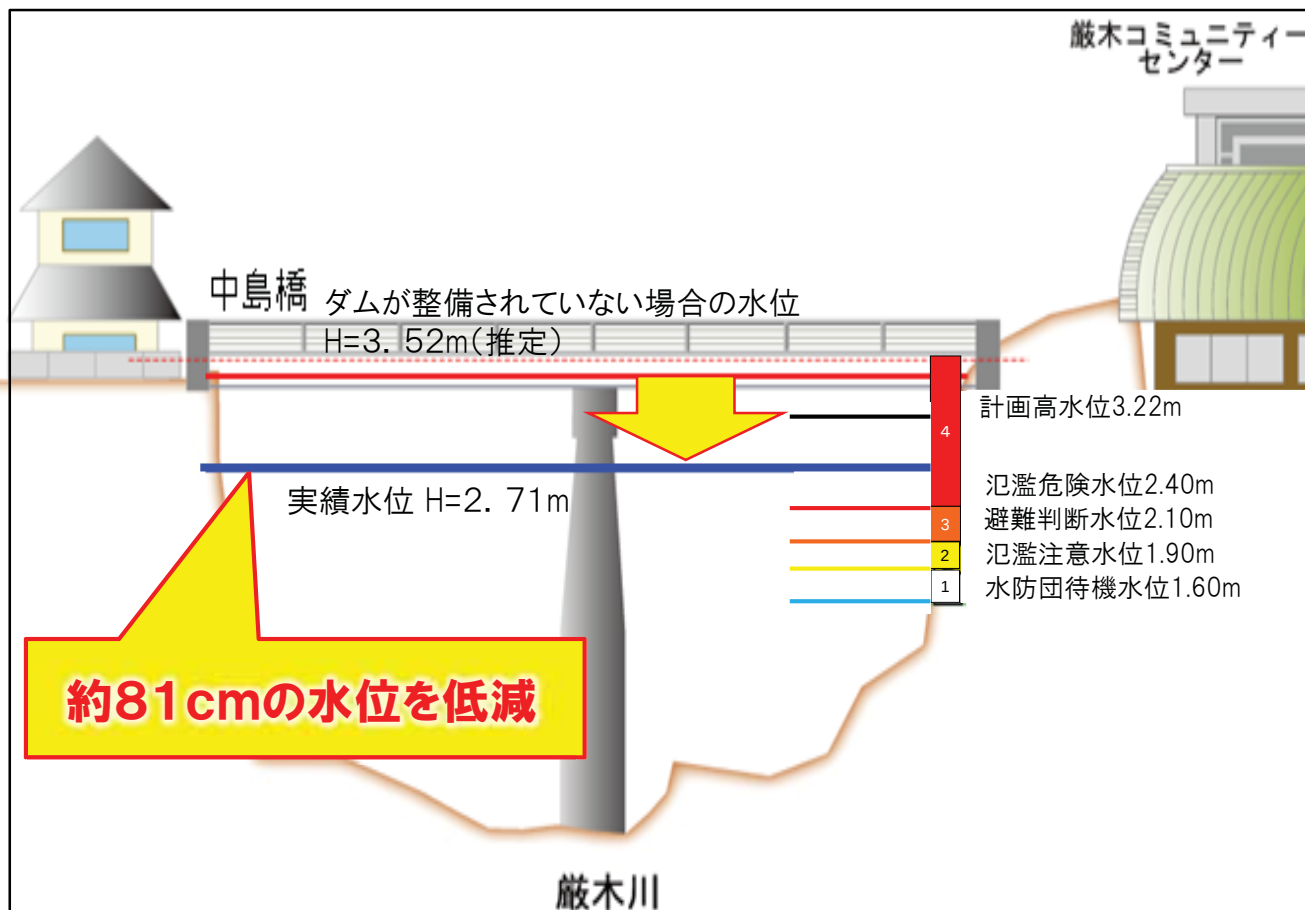
※数値は速報値であるため今後変わる可能性があります。

8. 治水事業の効果（松浦川水系 厳木ダム）

厳木ダム下流の中島橋地点で水位を約81cm低減

- 7月5日14時00分より防災操作を開始し、7月6日16時20分には173m³/秒をダムに貯留しました。
- 厳木ダムが整備されていなければ、中島橋地点の水位が約81cm上昇し、計画高水位を超過（約30cm）していたと推定されます。

中島橋地点（唐津市）



中島橋地点位置図



※数値は速報値であるため今後変わる可能性があります。

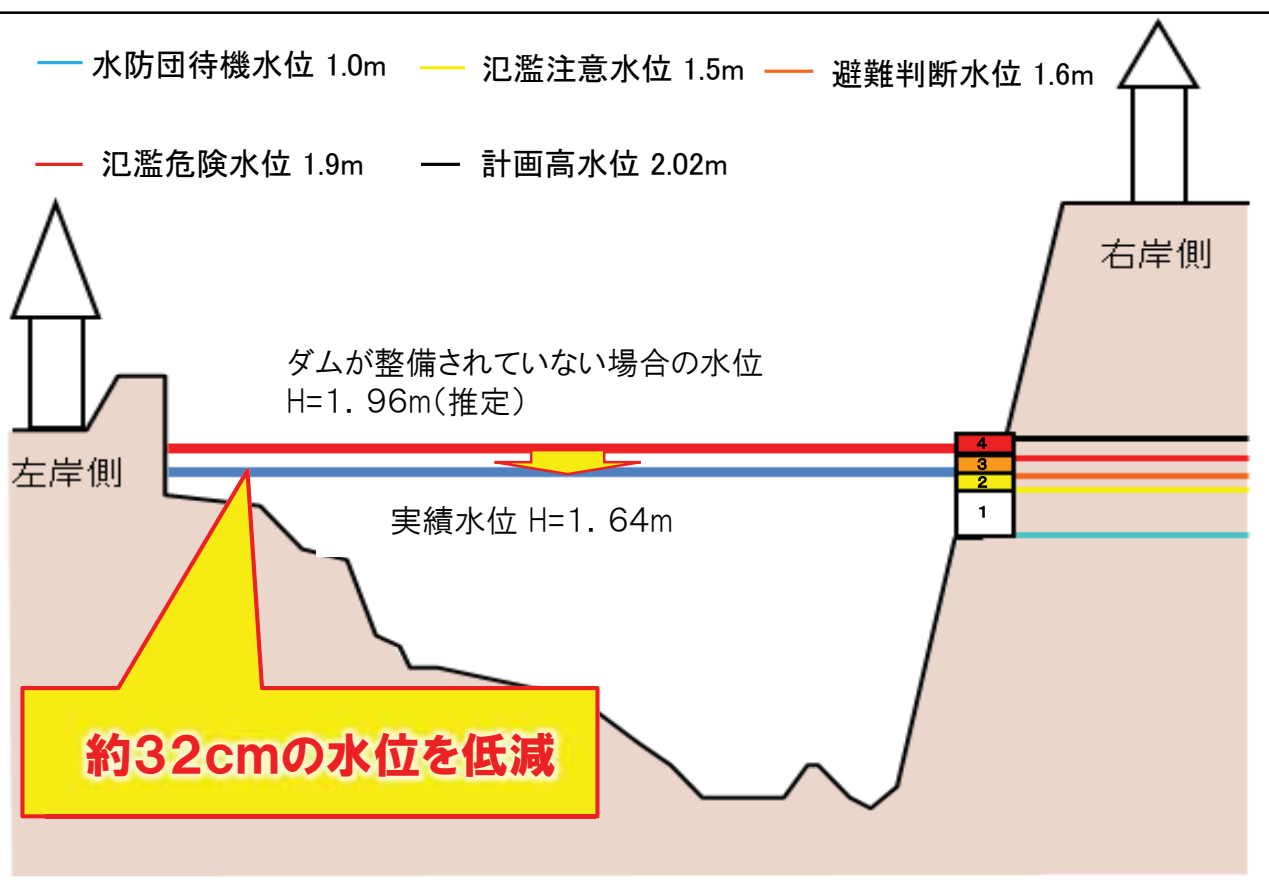
8. 治水事業の効果（菊池川水系 竜門ダム）

竜門ダム下流の隈府地点で水位を約32cm低減

- 7月6日23時01分より防災操作を開始し、7月7日2時00分には81m³/秒をダムに貯留しました。
- 竜門ダムが整備されていなければ、隈府地点の水位が約32cm上昇し、氾濫危険水位を超過していたと推定されます。

隈府地点（菊池市）

隈府地点位置図



※数値は速報値であるため今後変わる可能性があります。

8. 治水事業の効果（嘉瀬川水系 嘉瀬川ダム）

嘉瀬川ダム下流の川上地点で水位を約79cm低減

- 7月6日6時47分より防災操作を開始し、7月6日7時50分には157m³/秒をダムに貯留しました。
- 嘉瀬川ダムが整備されていなければ、川上地点の水位が約79cm上昇し、氾濫危険水位を大幅に超過（約82cm）していたと推定されます。

川上地点（佐賀市）

川上地点位置図



ダムが整備されていない場合の水位
H=6.52m(推定)

実績水位 H=5.73m

約79cmの水位を低減

計画高水位7.08m

4 氾濫危険水位5.70m

3 避難判断水位4.80m

2 氾濫注意水位4.20m

1 水防団待機水位3.00m

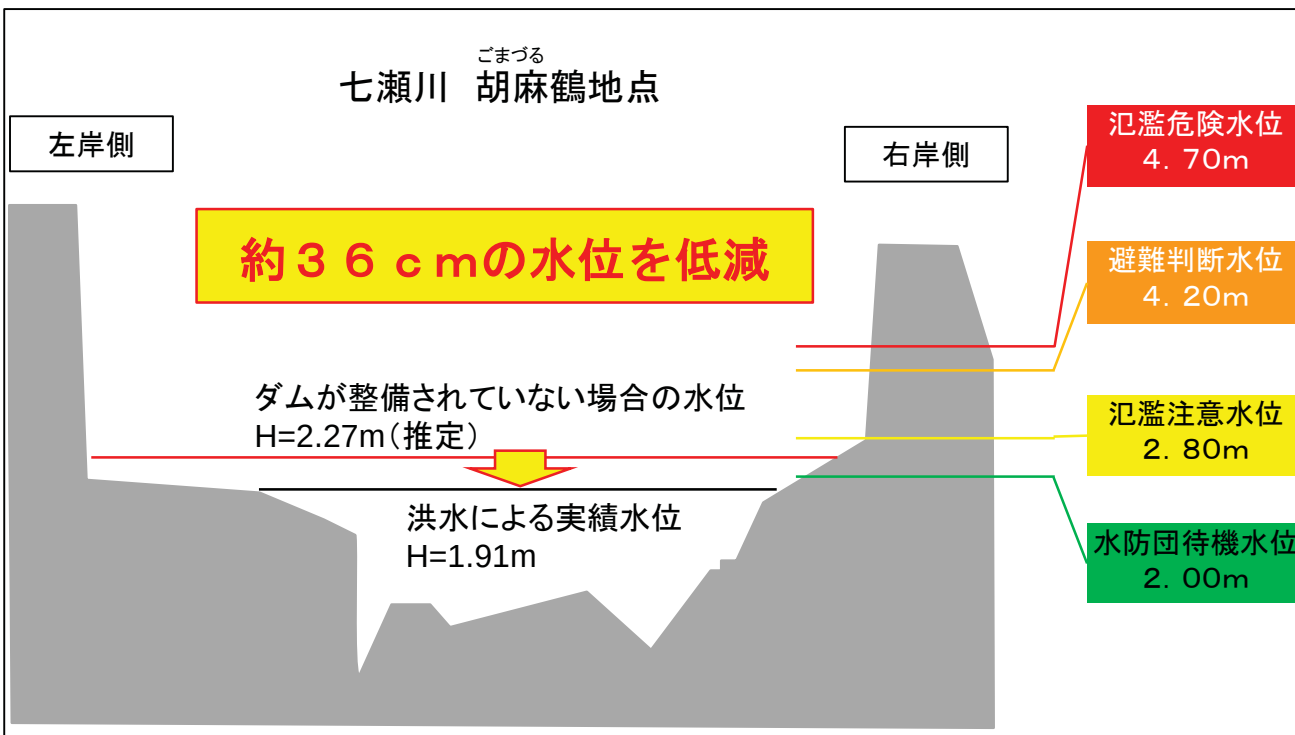
8. 治水事業の効果（大分川ダムの試験湛水中の効果）

試験湛水中の大分川ダム、水位を約36cm低減

- 大分川ダムは、本格運用前の試験湛水中ですが、最大179.8万m³(25mプール約4994杯分)の洪水を一時的に貯留し、ダム下流の七瀬川の水位低減を図りました。
- 大分川ダムの洪水貯留がなければ、七瀬川の水位は水防団待機水位を超過していたと推定されます。
- 大分川ダムの完成に向け、引き続き試験湛水を着実に実施していきます。

ごまづる

胡麻鶴地点位置図

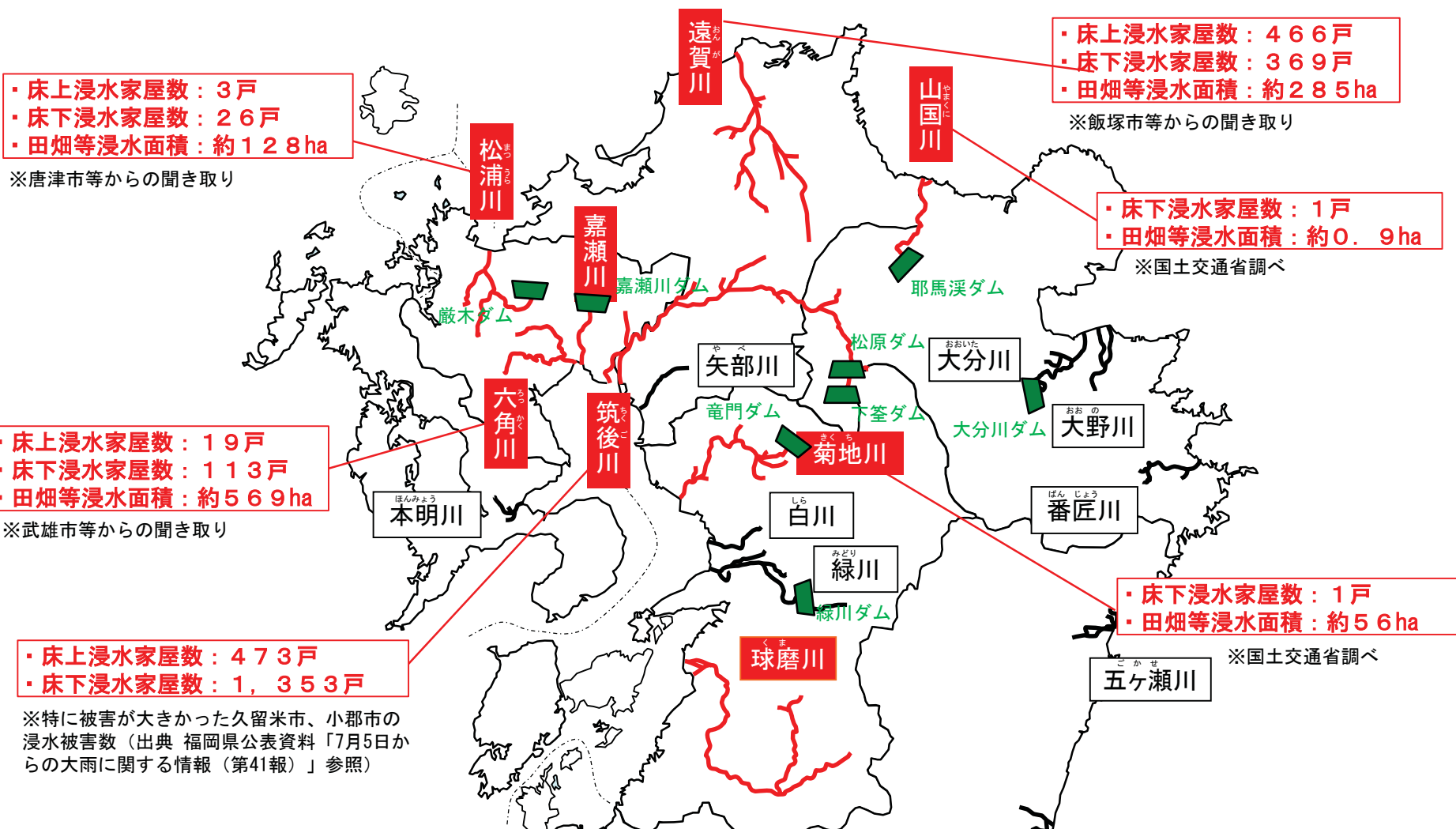


9. 直轄管理河川における一般被害状況

九州北部を中心に大きな被害が発生

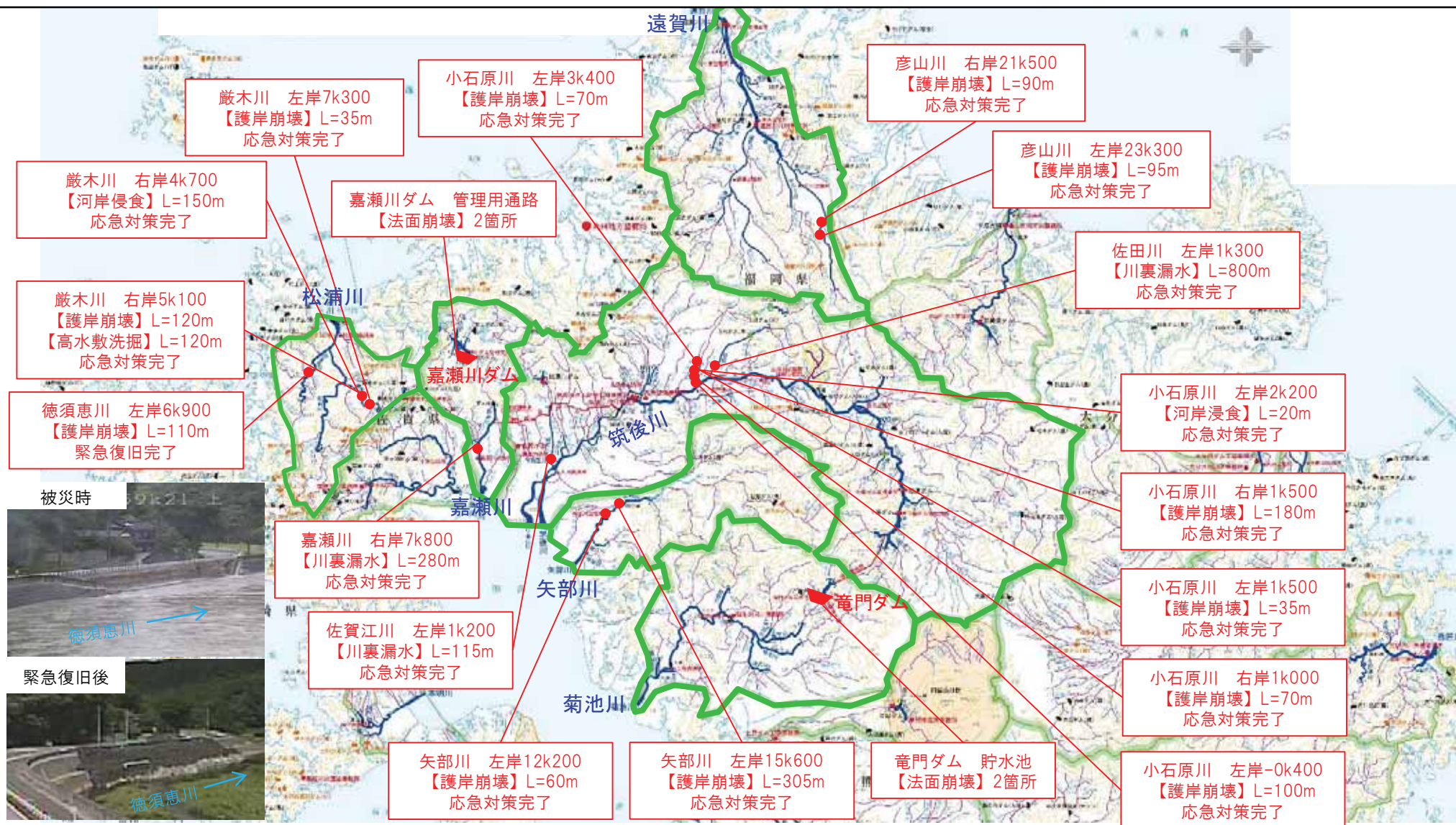
○遠賀川水系、筑後川水系、六角川水系をはじめ、九州北部を中心とした河川で浸水被害が発生しました。

※本資料については、8月10日時点における国土交通省調べの数値であり、今後の調査で変わる可能性があります。



10. 直轄管理河川等における施設被害状況

- 遠賀川水系で2箇所、筑後川水系で8箇所、矢部川水系で2箇所、嘉瀬川水系で1箇所、松浦川水系で4箇所の計17箇所の被災を確認しました（応急対策完了）
- 嘉瀬川ダムで2箇所、竜門ダムで2箇所の被災を確認しました。



【参考資料】

治水事業の効果（遠賀川の河川整備による効果（飯塚市街部））

- 遠賀川上流の飯塚市では、平成15年7月洪水で浸水家屋数約4,500戸の甚大な被害が発生しました。
- 平成16年度より概ね5年に渡り実施した「床上浸水対策特別緊急事業」において、集中的に河川整備を実施した結果、今次洪水では平成15年7月洪水の約1.6倍の降雨となったものの、浸水被害は大幅に軽減されました。



治水事業の効果（遠賀川の河川整備による効果（直方市街部））

○遠賀川中流の直方市街部では、平成15年7月洪水で浸水家屋数118戸の甚大な被害が発生したことを受け、平成17年度より「床上浸水対策特別緊急事業」により北小川排水機場を整備し、平成22年5月に完成しました。

○今次洪水では平成15年7月洪水の約1.2倍の降雨となり、日の出橋水位観測所で観測史上最高水位を更新しましたが、排水機場などの整備を実施したことにより、家屋の浸水被害はありませんでした。



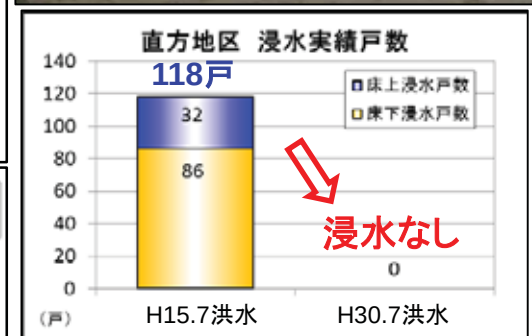
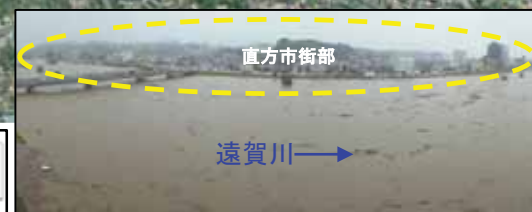
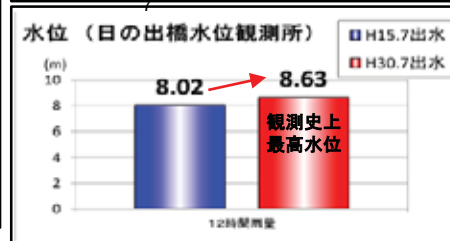
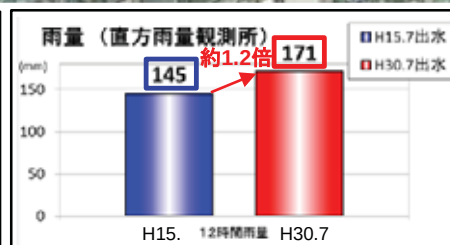
■直方地区の出水状況 (H15年7月)

【事業概要】

事業名	床上浸水対策特別緊急事業
事業内容	排水機場新設
期間	平成17～概ね5年間
事業費	約10億円



排水機場の新設と直方市の放水路及び
雨水幹線等の整備により平成15年7月出
水と同規模の降雨に対して氾濫を防止



※本資料の数値は速報値及び暫定値であるため、今後の調査結果等で変わる可能性があります。

治水事業の効果（山国川の河川事業による効果）

○山国川中流部では、平成24年7月3日、14日洪水と連続して約200戸の家屋浸水被害が発生したため、堤防整備や河道掘削等を「山国川床上浸水対策特別緊急事業」により集中的に実施し、平成30年6月に事業が完了しました。

○今般、12時間最大雨量が平成24年洪水に迫った降水量でしたが、山国川では家屋の浸水被害は発生しませんでした。



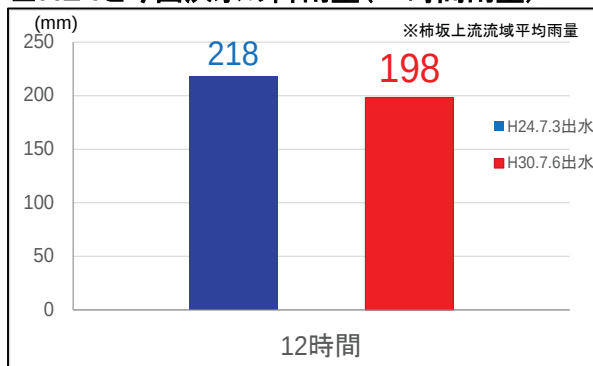
床上浸水対策特別緊急事業の概要

- 事業内容: 築堤、護岸、河道掘削、樹木伐採等
- 期間: 平成25年度～概ね5年間
- 全体事業費: 約74億円

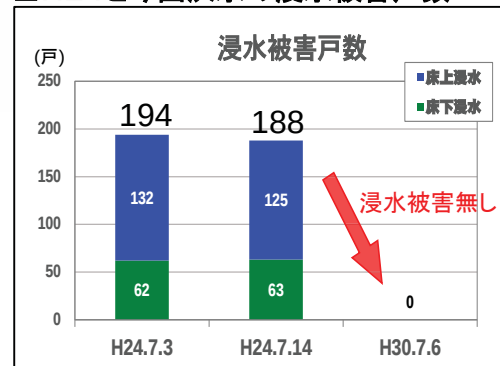
床対事業整備状況



■H24と今回洪水の降雨量（12時間雨量）



■H24と今回洪水の浸水被害戸数



- 六角川水系牛津川では、洪水被害の低減を目的とした「牟田辺遊水地」を整備し、平成14年に完成しました。
- 平成30年7月豪雨では、牟田辺遊水地で約18万m³の洪水を貯留し、下流河川の水位を約30cm低下させました。

牟田辺遊水地位置図

貯水域

牛津川

牟田辺遊水地

今回浸水域

越流堤

①

②

牛津川が大きな洪水となり、水位が高くなったときには牛津川の水の一部が遊水地内に入り、一時的に貯留され、牛津川の洪水を減らします。



西多久 (にしたく)

Year	Daily Maximum Rainfall (mm)
H2.7	344
今回出水 (Current Year)	262

岸川 (きしかわ)

Year	Daily Maximum Rainfall (mm)
H2.7	296
今回出水 (Current Year)	307

① 越流状況 (7/6 16:31)
平瀬橋
牛津川
牟田辺遊水地

② 遊水地内の貯留状況

牛津川
約18万 m^3 洪水を貯留
(25mプール約500杯分に相当)
転倒
越流堤
牟田辺遊水地
下流の水位を
約30cm低下

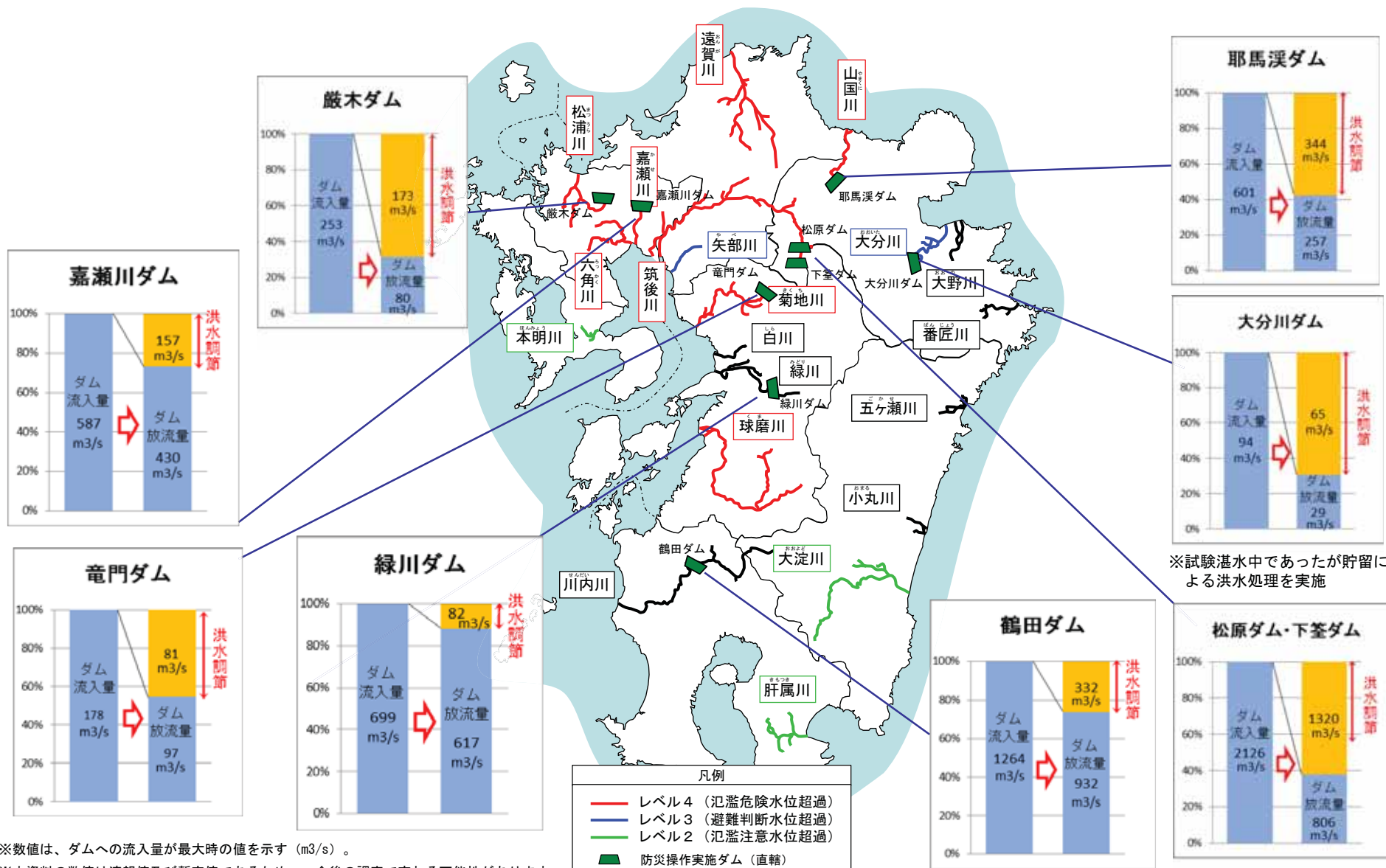
※本資料の数値は速報値及び暫定値であるため、今後の調査結果等で変わる可能性があります。

治水事業の効果（赤谷川の応急復旧工事・直轄砂防事業の効果）

- 平成29年7月九州北部豪雨では、筑後川水系赤谷川等で大量の土砂や流木等により甚大な被害が発生しました。
- 福岡県からの要請を受け、権限代行により国が復旧工事を行っている赤谷川では、平成30年5月末までに被災前と同等の流路の確保及び土砂止め工(2基)を一体的に整備し、直轄砂防事業では遊砂地等の設置が完了しました。
- 応急復旧工事の完了により、平成30年7月豪雨では土砂止め工及び遊砂地などで土砂を捕捉し下流への土砂の流出を抑制するとともに、河川からの氾濫を防止することができました。



九州のすべての直轄ダム(9ダム)で洪水調節を実施



治水事業の効果（^{せんだいがわ}川内川水系 ^{つるだ}鶴田ダム）

- 梅雨前線に伴う豪雨により、鶴田ダム上流域においては、355.7mm（7月4日0時～8日18時）の累加雨量を観測しました。
- 鶴田ダムは、7日1時20分より防災操作を開始し、7日9時10分にはダムへの流入量が最大となる1,264m³/秒に達しダムに332m³/秒を貯留しました。
- 鶴田ダムが整備されていなければ、宮之城地点で水位が約0.50m上昇し、**水防団待機水位を超過していたと推定**されます。

鶴田ダム



下流から堤体を望む



◆鶴田ダムの状況

約332m³/秒（＝①－②）
少なくなって、流れていたと推測。

②下流の河川へ
流した水量
932m³/秒
(7月7日9時10分時点)

鶴田ダム

①鶴田ダムへ流れてきた水量

1,264m³/秒（7月7日9時10分時点）

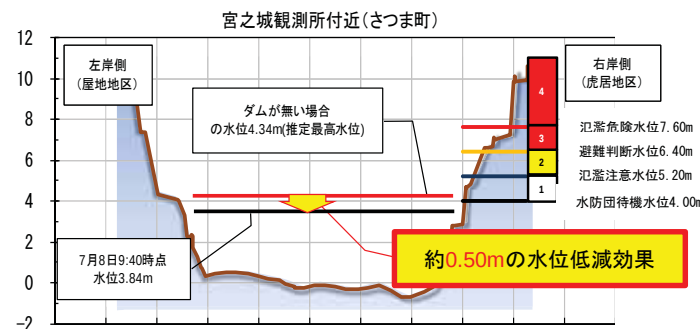
洪水貯留後貯水位：121.59m
(7月7日9時10分時点) 約6.4m上昇

洪水貯留前貯水位：115.22m
(7月7日1時20分時点)

約5,500千m³の水を
貯め込んだ。
これは25mプールの
約15,100杯分です。



宮之城地点での鶴田ダムの水位低減効果



※数値は速報値であるため今後変わる可能性があります。

治水事業の効果（緑川水系 みどりかわ 緑川ダム）

- 梅雨前線に伴う豪雨により、緑川ダム上流域においては、269mm(7月5日4時～8日13時)の累加降雨を観測しました。
- 緑川ダムは、7日5時00より防災操作を開始し、7日6時20分にはダムへの流入量が最大となる699m³/秒に達し、ダムに82m³/秒を貯留しました。
- 緑川ダムが整備されていなければ、中甲橋地点で水位が約0.28m上昇したと推定されます。

緑川ダム



下流から堤体を望む



◆緑川ダムの状況

約82m³/秒(=①-②)
少なくなって、流れていたと推測。

②下流の河川へ
流した水量
617m³/秒
(7月7日6時20分時点)

緑川ダム

①緑川ダムへ流れてきた水量
699m³/秒 (7月7日6時20分時点)

洪水貯留後最高水位：167.80m
(7月7日6時27分時点)

約2.7m上昇

洪水貯留前貯水位：165.08m
(7月7日5時00分時点)

約3,000千m³の水
を貯め込んだ。
これは25mプールの
約8,400杯分です。



中甲橋地点での緑川ダムの水位低減効果

ダムが無い場合の推定水位
H=2.67m

実績水位
H=2.39m

約0.28mの水位を低減

(7月7日7時00時点)

※数値は速報値であるため今後変わる可能性があります。

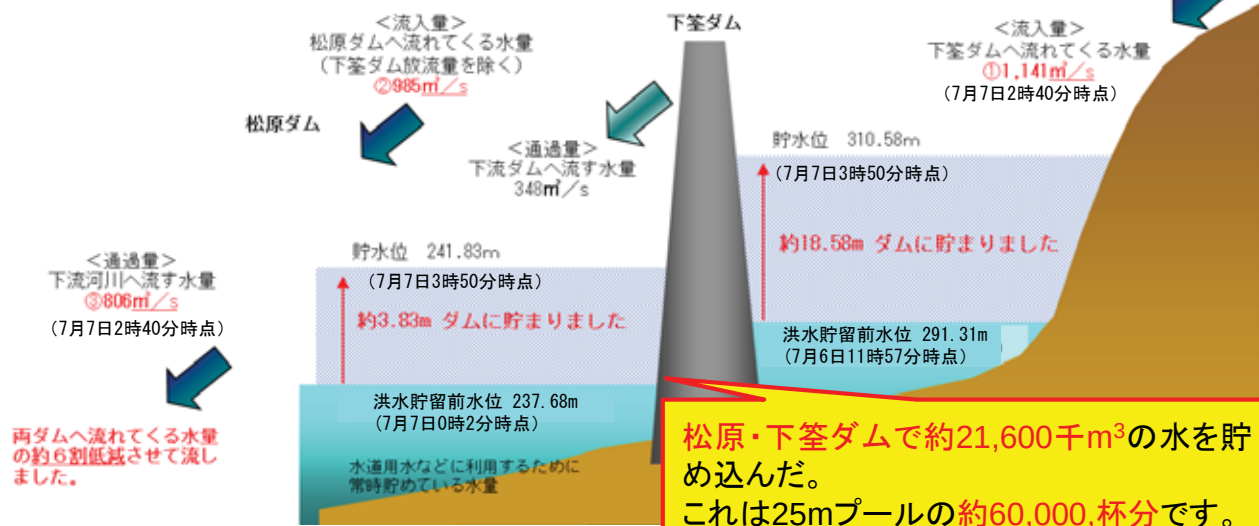
治水事業の効果 (筑後川水系 松原ダム・下笠ダム)

- 梅雨前線に伴う豪雨により、松原ダム及び下笠ダム上流域に設置している^{ちくごがわ まつばら しもうけ} 栃野雨量観測所において、445mm(7月5日6時～7日5時)の累加降雨を観測しました。
- 松原ダムは7日0時2分、下笠ダムは6日11時57分より防災操作を開始し、7日2時40分には両ダムへの流入量が2,126m³/秒(下笠ダム通過量を除く)に達し、ダムに1320m³/秒を貯留しました。
- 松原・下笠ダムが無かった場合、小淵地点で水位が約0.65m上昇し^{どち} 計画高水位に約29cmまで迫っていたと推定され、筑後川の浸水被害軽減に寄与したと推定されます。

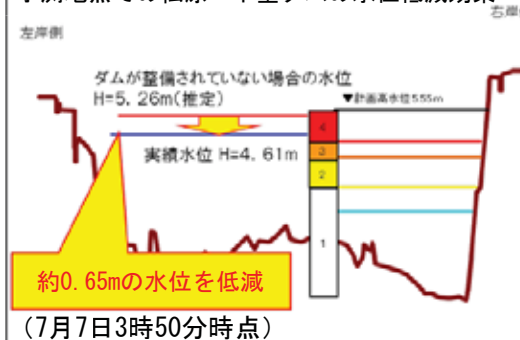
松原ダム



下笠ダム



小淵地点での松原・下笠ダムの水位低減効果



※数値は速報値であるため今後変わる可能性があります。

治水事業の効果（山国川水系 耶馬溪ダム）

- 梅雨前線に伴う豪雨により、耶馬溪ダム上流域においては、386.6mm(7月5日7時～8日15時)の累加降雨を観測しました。
- 耶馬溪ダムは、6日16時58分より防災操作を開始し、6日19時30分にはダムへの流入量が最大となる601m³/秒に達し、ダムに344m³/秒を貯留しました。
- 耶馬溪ダムが整備されていなければ、上曽木地点で水位が約0.61m上昇していたと推定されます。

耶馬溪ダム



◆耶馬溪ダムの状況

約344m³/秒(=①-②)
少なくなって、流れていたと推測。

②下流の河川へ
流した水量
257m³/秒
(7月6日19時30分時点)

耶馬溪ダム

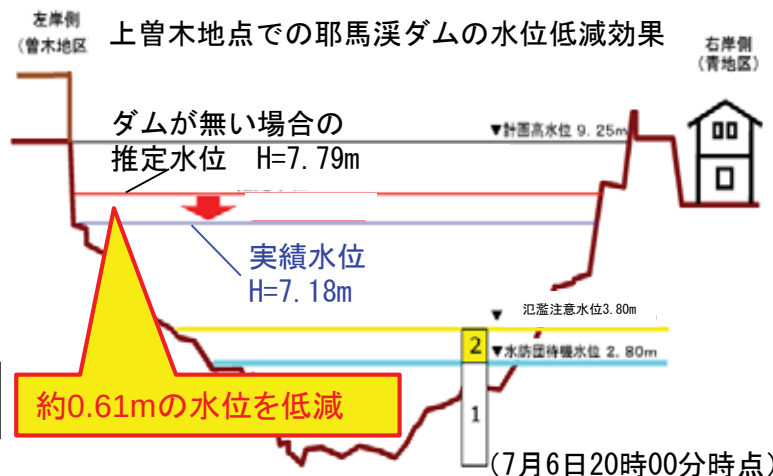
①耶馬溪ダムへ流れてきた水量
601m³/秒(7月6日19時30分時点)

洪水貯留後最高水位：167.32m
(7月7日4時43分時点) 約5.7m上昇

洪水貯留前貯水位：161.62m
(7月6日16時58分時点)

約4,400千m³の水を
貯め込んだ。
これは25mプールの
約12,100杯分です。

下流から堤体を望む



※数値は速報値であるため今後変わる可能性があります。

治水事業の効果（松浦川水系 厳木ダム）

- 梅雨前線に伴う豪雨により、厳木ダム上流域においては、560mm(7月5日8時～6日24時)の累加降雨を観測しました。
- 厳木ダムは、5日14時00分より防災操作を開始し、6日16時20分にはダムへの流入量が最大となる253m³/秒に達し、ダムに173m³/秒を貯留しました。
- 厳木ダムが整備されていなければ、中島橋地点の水位が約0.8m上昇し、計画高水位を超過(約30cm)していたと推定され、厳木川の浸水被害軽減に大きく寄与したと推定されます。

厳木ダム



下流から堤体を望む



◆厳木ダムの状況

約173m³/秒(=①-②)
少なくなって、流れていたと推測。

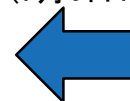
②下流の河川へ
流した水量
80m³/秒
(7月6日16時20分時点)



厳木ダム

①厳木ダムへ流れてきた水量

253m³/秒(7月6日16時20分時点)



洪水貯留後最高水位：206.12m
(7月6日18時01分時点)

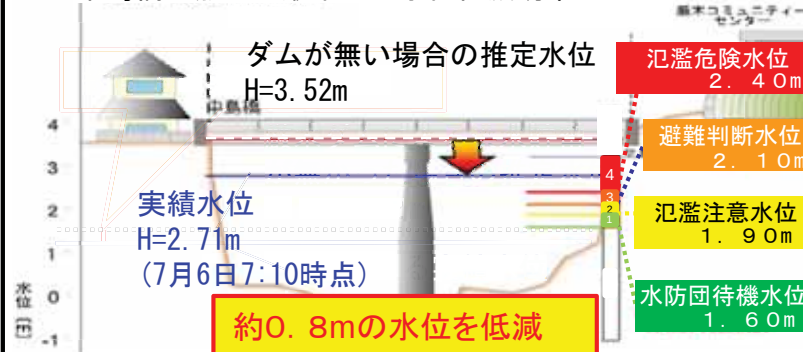
洪水貯留前貯水位：198.49m
(7月5日18時14分時点)

約7.6m上昇

約1,200千m³の水を
貯め込んだ。
これは25mプールの
約3,300杯分です。



中島橋地点での厳木ダム水位低減効果



※数値は速報値であるため今後変わる可能性があります。

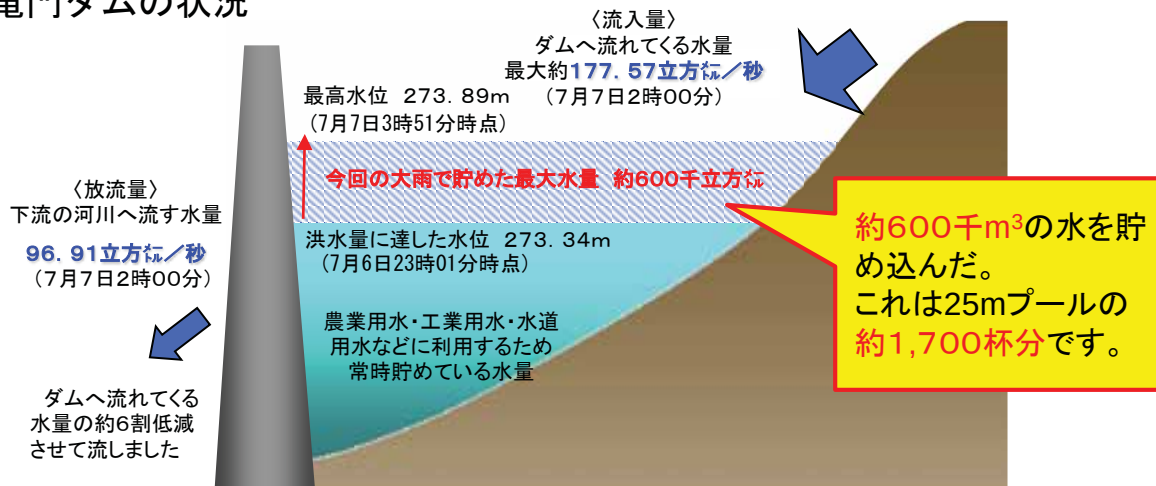
治水事業の効果（菊池川水系 竜門ダム）

- 梅雨前線に伴う豪雨により、竜門ダム上流域においては、442.1mm(7月5日0時～7日3時)の累加降雨を観測しました。
- 竜門ダムは、6日23時01分より防災操作を開始し、7日2時00分にはダムへの流入量が最大となる177.57m³/秒に達し、ダムに80.66m³/秒を貯留しました。
- 竜門ダムが整備されていなければ、隈府地点の水位が約0.32m上昇し、**氾濫危険水位を超過していたと推定され**、迫間川の浸水被害軽減に寄与したと推定されます。

竜門ダム



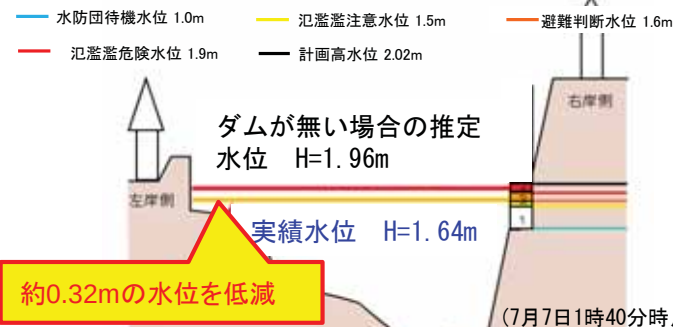
◆竜門ダムの状況



下流から堤体を望む



隈府地点での竜門ダムの水位低減効果



※数値は速報値であるため今後変わる可能性があります。

治水事業の効果（嘉瀬川水系 嘉瀬川ダム）

- 梅雨前線に伴う豪雨により、嘉瀬川ダム上流域においては、535mm(7月5日6時00分～7日7時50分)の累加降雨を観測しました。
- 嘉瀬川ダムは、6日6時47分より防災操作を開始し、6日7時50分にはダムへの流入量が最大となる587m³/秒に達し、ダムに157m³/秒を貯留しました。
- 嘉瀬川ダムが無かった場合、川上地点の水位が約0.8m上昇し、**氾濫危険水位を大幅に超過(約82cm)して**いたと推定され、嘉瀬川の浸水被害軽減に寄与したと推定されます。

嘉瀬川ダム



下流から堤体を望む



◆嘉瀬川ダムの状況

約157m³/秒(=①-②)
少なくなって、流れていたと推測。

②下流の河川へ
流した水量
430m³/秒
(7月6日16時20分時点)

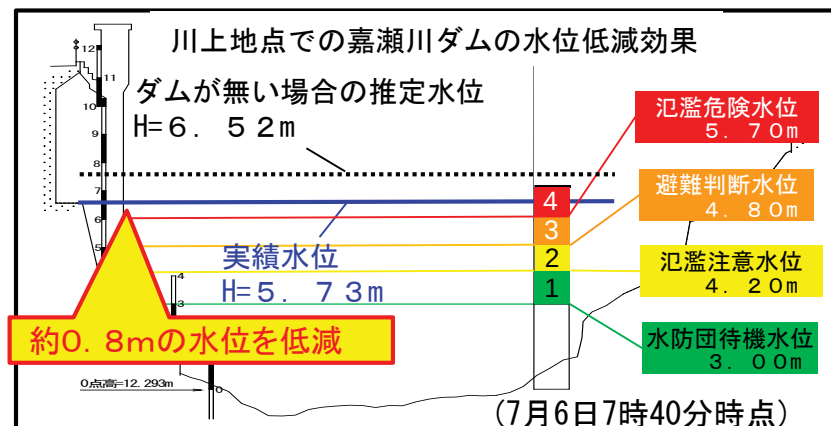
嘉瀬川ダム

①嘉瀬川ダムへ流れてきた水量
587m³/秒 (7月6日16時20分時点)

洪水貯留後水位：292.60m
(7月6日17時49分時点) 約1.9m上昇

洪水貯留前貯水位：290.70m
(7月6日6時47分時点)

約3,800千m³の水を
貯め込んだ。
これは25mプールの
約10,600杯分です。



※数値は速報値であるため今後変わる可能性があります。

治水事業の効果（大分川ダム試験湛水中の効果）

- 梅雨前線に伴う豪雨により、大分川ダム上流域においては、192mm(7月6日3時～7日9時)の累加降雨を観測しました。
- 大分川ダムは、現在、本格運用前の試験湛水中ですが、最大179.8万 m^3 (25mプール約4994杯分)の洪水を一時的に貯留し、ダム下流の七瀬川の水位低減を図りました。(ダムの直下では、約1mの水位を低減)
- 大分川ダムの洪水貯留がなければ、七瀬川の水位は水防団待機水位を超過していたと推定されます。
- 大分川ダムの完成に向け、引き続き試験湛水を着実に実施していきます。

7月3日 (EL. 176.4m)



7月7日 (EL. 179.22m)



◆大分川ダムの状況

約64.51 m^3 /秒(=①-②)
少なくなって、流れていたと推測。

②下流の河川
へ流れた水量
29.35 m^3 /秒
(7月7日4時00分時点)



大分川ダム

最高貯水位：179.22m
(7月7日9時20分時点) 約2.83m上昇

降雨前の貯水位：176.39m

①大分川ダムへ流れてきた水量
93.86 m^3 /秒
(7月7日4時00分時点)



約1,798,000 m^3 の水
を貯め込んだ。
これは25mプールの
約4994杯分です。

今市雨量観測所（累加雨量）：192mm（7/6 3時～7/7 9時まで）



大分川流域図

ごまづる
七瀬川 胡麻鶴地点

約0.36mの水位を低減

大分川ダムによる洪水貯留
が無かった場合の推定水位
H=2.27m

洪水による実績水位
H=1.91m

氾濫危険水位
4.70m

避難判断水位
4.20m

氾濫注意水位
2.80m

水防団待機水位
2.00m

※本資料の数値は速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。